



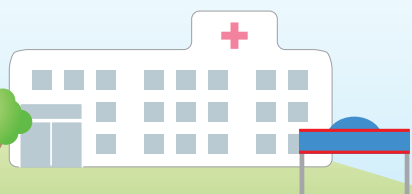
地方独立行政法人 大阪府立病院機構
Osaka Prefectural Hospital Organization



大阪 母子医療 センター



診療のご案内



2025

OSAKA WOMEN'S AND CHILDREN'S HOSPITAL



大阪母子医療センター
総長 倉智 博久

「今年度も母子医療センターの医療をさらに拡充します」

いつも、当センターとの医療連携にご協力いただき有難うございます。心からお礼申し上げます。2025年度の「診療のご案内」をお届けいたします。患者さんの紹介などにご活用いただけましたら幸いです。

医師の働き方改革が昨年度開始されました。今後はとくに周産期・小児医療施設の集約化は促進されると思われる、和泉市を含む南大阪地域の周産期・小児医療提供体制において、当センターは今まで以上の責務を果たしていかなければならないと考えております。地域の医療機関の皆さまのご協力をいただきながら、幅広く周産期・小児医療そして小児救急に対応してまいります。2022年4月からは泉州の小児救急輪番病院にも加えていただいています。

今までも、地域の医療機関からの搬送依頼には必ず応え、ご依頼を断らないことを実践してきましたが、一層ご期待に添える体制を整えます。今後も、当センターをご活用いただけますようよろしくお願いいたします。

「地域医療連携ネットワーク事業（南大阪MOCOネット）」を2018年3月から開始し、参加施設数を増やしています。接続施設数は2024年度末で病院10、診療所36、歯科診療所6、訪問看護ステーション35、障害福祉施設1、医療福祉施設2、薬局17の計107か所となっています。当センターの患者基本情報、退院時サマリー、検査結果、画像情報などはもちろん医療機関に対しては、医師記録、看護記録にも開示情報を広げています。

当センターは、総合周産期母子医療センターや母体搬送・新生児搬送の基幹施設としての役割を継続しつつ、ローリスクな分娩や幅広い小児疾患の診療にも力を入れています。どのような妊産婦、患児にも対応いたします。ご紹介をよろしくお願いいたします。また、重篤小児患者受け入れの基幹病院として重篤小児救急患者を積極的に受け入れるとともに、小児の二次救急、輪番日の一次救急にも確実にお応えできる体制を整えてまいります。

当センターを退院した患児に対する継続的な地域の医療支援のためにも、また、多くの妊婦さん・患者さんをご紹介いただくためにも、地域連携はきわめて重要なことと考えています。地域医療連携機関の登録制度を導入することにより、現在372施設、産科セミオープンシステム50施設に登録していただいています。近医で妊婦健診をしていただき、当センターで分娩していただくという産科セミオープンシステムを充実させるため、改めて本システムへの登録をお願いしております。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。患者支援センターでは、多職種間の連携を密にし、妊産婦と患児の前方支援から後方支援まで総合的なサービスを提供しております。

今後とも大阪母子医療センターに、皆さまのご指導・ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

子ども達に「勇気・夢そして笑顔」を



大阪母子医療センター
病院長 光田 信明

「母子医療センターの診療ご案内」

日頃は、当センターとの医療連携においてお世話になり誠にありがとうございます。2025年度からは地域医療支援病院として大阪府の承認を受けました。元来は、患者に身近な地域で医療が提供されることが望ましいという観点から、紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を行い、かかりつけ医等への支援を行う病院として創設されています。これによって、皆さまと当センターの連携がより緊密になることを目指しています。

周産期診療部門では総合周産期母子医療センターとして、また産婦人科診療相互援助システム（OGCS）の拠点施設および新生児診療相互援助システム（NMCS）の基幹病院として母と子のための医療体制を整えてまいりました。2024年度は1924件の分娩を取り扱い、162件の新生児搬送に対応しました。近隣地域および全国の医療機関からのハイリスク症例の診療をはじめ、ローリスク症例や紹介状をお持ちでない妊婦さんも受け入れています。また、TOLAC（既往帝王切後妊娠の経膈分娩トライアル）や麻酔科医による硬膜外麻酔での無痛分娩も24時間体制で行っています。

小児診療部門では、新生児からの継続的な医療、そして高度な専門医療を行ってきました。新生児に対しての手術（110件）や心臓血管手術（242件）など、昨年度については合計4389件の手術を行いました。当センターは大阪府重篤小児患者受入ネットワーク拠点施設であり、大阪府より二次救急告示医療機関にも認定されています。三次救急としては、PICUと1E病棟（急性期病棟）の計18床で集中治療医療を行い、重篤な患者さんや病院間の搬送を積極的に受け入れています。小児一次救急医療機関としても、軽症や初期救急・休日夜間の急患（当番制）に対応しています。小児診療科の対象疾患は重症疾患や複雑な先天性疾患に限らず、より一般的な疾患も診療の対象としています。

当センターは、新生児・小児領域に精通した麻酔科と集中治療科が充実しており、手術手技や鎮静の必要なMRIやCTといった検査を安全に行うための設備と、子どもたちに寄り添ったチーム医療を備えていますので、安心してご利用いただければと思います。

ご相談やセカンドオピニオンの受付窓口として、患者支援センターをはじめPICUホットライン、小児がん・白血病ホットライン、心疾患ホットラインなどの設置・充実を図り、より多くの医療関係施設の皆さまとの地域医療連携システムの運用をすすめています。患者支援センターにおいては、地域診療情報連携システム（南大阪MOCOネット）が稼働しています。また、『大阪府移行期医療支援センター』、『大阪府医療的ケア児支援センター』も運用しています。2024年度からは『大阪府妊産婦メンタルヘルスネットワーク事業』も開始しています。

従来から新生児先天代謝異常スクリーニング検査を行っていますが、拡大マススクリーニング（SCID、SMA）事業は2024年3月から、公費負担での実証事業に移行しました。2024年度からはライソゾーム病にも拡大しています。

今後も、周産期・小児期の専門病院として、従来通りの診療を維持しながら、皆さまと一緒によりよい医療を提供する所存です。皆さまのご支援・ご協力、よろしくお願いいたします。

+ 基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、
質の高い医療と研究を推進します。

+ 基本方針

周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。

周産期医療部門は、すべての妊産婦に安心・安全なお産、胎児・新生児の疾患に高度な医療を提供します。小児医療部門は、専門家として小児の内科・外科・救急医療において幅広く対応します。

患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。

患者さんが安心して主体的に医療に参加できるよう、「患者の権利に関する宣言」を踏まえ、また、病院におけるこどもの権利を尊重し、相互の信頼関係に立った医療を行います。

地域と連携して母子保健を充実させます。

地域の保健・医療・福祉・教育などの関係機関との連携により、母子保健に関する調査・研究・研修を実施するとともに、在宅医療や移行医療を推進します。妊産婦、子どもやその家族の自立支援と地域生活を応援します。これらの取組みにより母子保健の向上に努めます。

母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。

研究所は病院部門と連携し、周産期及び小児発達期における様々な疾患の原因究明に取り組むとともに、疾病の予防・診断・治療法の開発・研究を推進します。



センター組織図



CONTENTS

01	基本理念・基本方針
02	組織図・幹部職員の紹介
04	初診予約のご案内
06	産科セミオープンシステムのご案内
06	病理診断コンサルテーションのご案内
07	検査センターのご案内
07	セカンドオピニオン制度のご案内
08	ICTを利用した地域診療情報連携システム (南大阪MOCOネット)について
09	診療実績
	● 診療科・診療支援部門のご案内
10	産科
11	新生児科
12	母性内科
13	消化器・内分泌科
14	腎・代謝科
15	血液・腫瘍科
16	脳神経内科
17	子どものこころの診療科
18	遺伝診療科
19	呼吸器・アレルギー科
20	循環器内科
21	心臓血管外科
22	小児外科
23	脳神経外科
24	泌尿器科
25	整形外科
26	眼科
27	耳鼻咽喉科
28	形成外科
29	口腔外科
30	麻酔科
31	集中治療科
32	周産期・小児感染症科
33	救急・総合診療科
34	放射線科／リハビリテーション科
35	病理診断科／臨床検査科
36	薬局／臨床検査部門
37	放射線部門／MEセンター
38	リハ・育療支援部門
39	栄養管理室／診療情報管理室
40	中央滅菌材料センター／臨床研究部
41	医療安全管理室／感染管理室
42	看護部
44	母子保健調査室／情報企画室
45	小児がんセンター／発達外来推進室
46	小児救命救急センター
47	図書室／ボランティア
48	患者支援センター
50	● 初診予約枠一覧／施設認定等一覧

幹部職員の紹介



総長
倉智 博久



病院長
光田 信明



副院長
和田 和子



副院長
樋口 周久



統括診療局長
橘 一也



診療局長
窪田 拓生



診療局長
吉岡 直人



診療局長
清水 義之



看護部長
田中 はるみ



研究所長
道上 敏美

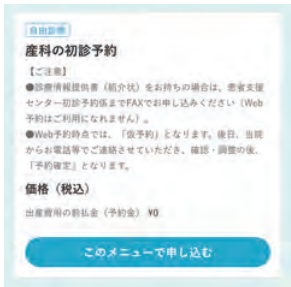


事務局長
安井 健二

初診予約のご案内

通常の初診予約

小児部門 母性内科	予 約 窓 口	患者支援センター（地域連携） F A X 0725-56-5605 <24時間受付> ※午後7時以降に受領したFAXの回答は、次の受付開始後となります。
	予 約 方 法	「大阪母子医療センター初診予約申込書（産科以外）」に必要事項を記入し、予約窓口へ送信してください。（患者さん自身がFAXされても結構です。） 申込書の様式は大阪母子医療センターHP内 https://www.wch.opho.jp/data/media/opho/page/hospital/consultation/syoshin/syosinyoyaku.pdf よりダウンロード
	注 意 事 項	・初診は、原則として医師の紹介状が必要です。 ・初診は、予約制としております。
	FAXにて 受付	

産 科	Web 予 約	紹介状のない妊婦さんはスマートフォンでのWeb予約が可能です。 ※システムの都合上、ご予約いただける日程は最低で3日後からとなっております。お急ぎの場合は、お電話またはFAXにて予約を受け付けます。なお、医療機関からの診療情報提供書をお持ちの場合、Web予約はご利用になれません。
	Web 予約方法	https://online.medicalnote.jp/institutions/3386b0c4 ■ Web予約画面  上記にアクセスし、最下段の「このメニューで申し込む」より入力してください。 Web予約時点では、「仮予約」となります。 後日、当院より電話でご連絡し、確認・調整の後「予約確定」となります。
	予 約 窓 口	患者支援センター（地域連携） F A X 0725-56-5605 <24時間受付> ※午後7時以降に受領したFAXの回答は、次の受付開始後となります。 電 話 0725-56-9890（直通）<午前9時～午後7時> （土日祝日、12月29日～1月3日を除く）
	予 約 方 法	F A X 「大阪母子医療センター産科初診予約申込書」に必要事項を記入し、予約窓口へ送信してください。 申込書の様式は大阪母子医療センターHP内 https://www.wch.opho.jp/data/media/opho/page/hospital/consultation/syoshin/syosinyoyaku_sanka.pdf よりダウンロード 電 話（産科のみ） 予約窓口にて、下記の患者情報をお伝えください。 ①患者氏名 ②生年月日 ③連絡先 ④最終月経または出産予定日 ⑤多胎の有無 ⑥紹介状の有無 ▶ ハイリスク分娩については、FAXをご利用ください。 ▶ 紹介状がなくてもいつでも受け入れます。

予約確認の連絡について

小児部門	連 絡 方 法	患者支援センター（地域連携）より、FAXにて紹介元医療機関へ「診察予約票」「診療申込書」を返信します。
	連絡に要する時間	申込みが時間内であれば、原則30分以内に返信します。
産科・母性内科	連 絡 方 法	予約申込を受けましたら、患者支援センター（地域連携）より直接患者さんへ連絡のうえ、受診日を調整いたします。受診日が決定しましたら、紹介元医療機関へFAXにて「診察予約票」を送信します。
	連絡に要する時間	申込みが時間内であっても、予約日時の確定のご返事は翌日以降になる場合もあります。

来院時の持ち物について

初診時に、受付カウンターにて次の書類を提出してください。

提出書類

紹介状、健康保険証、診察予約票、診療申込書（医療機関または患者さんで事前に記入しておいてください）
次の書類をお持ちの方はご持参ください。母子手帳、医療証

提出先

総合受付カウンター 7番 初診受付係

予約の変更について

変更の連絡先

患者支援センター（地域連携）

電話 | 0725-56-9890（直通）＜午前9時～午後7時＞

※変更は、やむを得ない場合に限るようご協力ください。

緊急時の初診予約

産科	産婦人科診療相互援助システム（OGCS） 電話 0725-56-1220（代表） ■ 電話交換手に「 <u>母体搬送依頼</u> 」とお伝えください。
新生児科	新生児診療相互援助システム（NMCS） 電話 0725-56-1220（代表） ■ 電話交換手に「 <u>新生児の入院</u> 」とお伝えください。
その他の診療科	予約日まで待てない緊急の場合は、お電話にて直接各診療科の医師にお問い合わせください。 受付窓口・手続き方法 電話 0725-56-1220（代表） ■ 電話交換手に「〇〇科（診療科名）緊急依頼」とお伝えください。 ■ お伝えいただく情報： 紹介元医療機関の名称・担当医師名・電話番号・所在地 ■ 患者搬送が必要な場合は次の情報もあわせてお伝えください。 ・紹介患者さんの氏名・性別 ・問題点 ・年齢（生年月日） ・一般状態 ・体重 ・感染症疾患合併の有無 など 診療科別当直医師人数 時間外および休日の当直体制については、次のとおりです。 産科：3名 新生児科：2名 内科系：2名 外科系：1名 循環器科：1名 麻酔科：2名 集中治療科：2名



PICUホットライン

当センターでは、PICU管理が必要な重篤小児患者さんを可能な限り受け入れさせていただきます。以下のホットラインにお電話ください。なお、紹介いただいた患者さんの症状が安定しましたら、原則として逆紹介をお願いしておりますので、どうぞご協力くださいますようお願いいたします。患者さん、ご家族からのご相談はご遠慮ください。

PICUホットライン | 0725-56-1070 ※集中治療室にて24時間対応します。

初診予約枠については、最終ページの〈初診予約枠一覧〉をご確認ください。



産科セミオープンシステムのご案内

当センターでは、地域の医療機関と緊密に連携し、相互の協力の下に安全で快適な出産を行う産科セミオープンシステムを実施しています。セミオープンシステム希望の患者さんが、妊娠中の夜間・休日に異常があった場合は、当センターにて対応いたします。

出産までの流れ

妊娠初期

地域の医療機関にて受診

妊娠16週まで

大阪母子医療センターにて受診
・ID作成 ・分娩予約

妊娠～31週頃

地域の医療機関にて受診（定期）

妊娠28週頃
妊娠32～34週以降

大阪母子医療センターに再受診

大阪母子医療センターにて出産

申込方法

産科セミオープンシステム登録申請書にて登録申請をお願いします。折り返し当センターより、登録認定証を送付いたします。セミオープン施設にご登録いただきましたら、

- 1.院内及びホームページに施設名を提示いたします。
- 2.図書室（文献検索サービス）をご利用いただけます。
★平日（月から金）午前9時～午後5時
文献、蔵書を自由に閲覧できます。
- 3.当センター主催の講演会等のご案内をいたします。
- 4.胎児精密超音波外来をご利用いただけます。

お問い合わせ先

患者支援センター（地域連携）

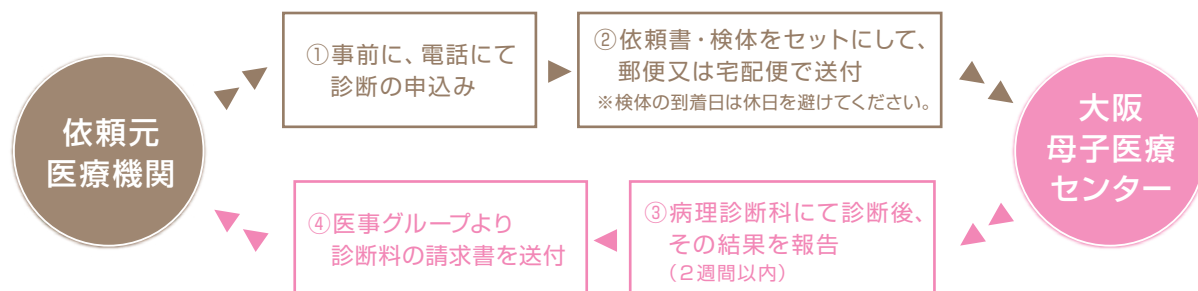
電話 | 0725-55-3113（直通）

受付時間 | 午前9時～午後5時
（土日祝日、12月29日～1月3日を除く）

病理診断コンサルテーションのご案内

当センターでは、病理診断コンサルテーションを受け付けています。
所定の依頼書を添えて、病理診断科までお送りください。

依頼の流れ



連絡先および送付先

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町840
大阪母子医療センター
病理診断科 担当：竹内 真（病理診断科主任部長）
電話 | 0725-56-1220（内線2079）
（土日祝日、12月29日～1月3日を除く）
送付方法は大阪母子医療センター HP内

診断料

- 病理診断料Ⅰ 8,130円
- 病理診断料Ⅱ（当センターにて標本作製を伴うもの）19,054円

送付いただくもの

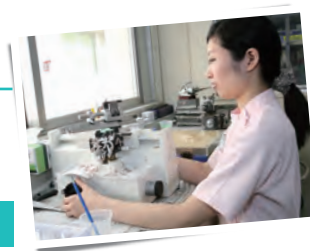
■ 大阪母子医療センター病理組織検査依頼書

依頼書の様式は大阪母子医療センターHP内
<https://www.wch.opho.jp/data/media/opho/page/hospital/medical/consultation/byorikensa.pdf> よりダウンロード

- 病理検体 | ホルマリン固定組織、パラフィンブロック、HE染色標本、未染標本、凍結組織など

診断結果

2週間以内にお知らせします。



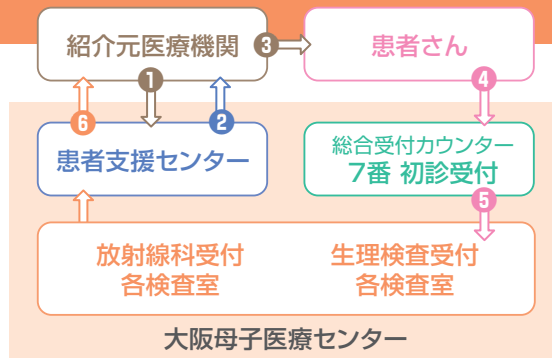
検査センターのご案内

検査センターとは、各医療機関における診療の過程で、CT・MR・脳波・心エコー・心電図の各検査が必要となった場合に、『大阪母子医療センターで検査を実施し、その検査結果を紹介元医療機関へ報告する』というシステムです。



申し込みから検査終了までの流れ

- ① 検査予約の申し込みは、各医療機関よりFAXでお受けいたします。
- ② 検査日時を決定し、折り返しFAXでご案内いたします。
- ③ 各医療機関から、患者さんにご説明ください。
- ④ 検査当日は、総合受付カウンター7番 初診受付で受付をしていただきます。
- ⑤ 各検査室にて検査を行います。
- ⑥ 検査結果は後日、紹介元医療機関へ郵送いたします。



検査内容

●放射線科実施検査

検査の種類	曜日	時間	対象年齢
C T(単純のみ)	月曜日～金曜日	15:00～15:30	6歳以上 18歳以下
M R(単純のみ)	月曜日～金曜日	15:30～16:15	6歳以上 18歳以下

*造影剤を使用する検査は行いません。
*単純検査のみで、造影検査は行いません。

●検査科実施検査

検査の種類	曜日	時間	対象年齢
脳波	月曜日～金曜日	9:10～10:10	6歳以上 18歳以下
心電図(安静時12誘導)	水曜日・金曜日	9:00～12:00	6歳以上 18歳以下
心エコー	水曜日のみ	9:00～ 9:30	6歳以上 18歳以下

*眠剤を使用する検査は行いません。
*脳波検査は、睡眠賦活を行います。自然睡眠のみとし、自然睡眠が得られなかった場合は、覚醒時のみの検査となります。
*脳波・心電図の検査結果は波形データのみとなります。

セカンドオピニオン制度のご案内

当センターでは、他の医療機関にて治療中の患者さんやそのご家族を対象に、セカンドオピニオン(第二の意見)制度を実施しています。希望される方は、直接、患者支援センター(地域連携)にお電話ください。詳細について担当者よりご説明いたします。

料 金

依頼者の全額実費負担となります。

1件あたり: 31,000円 面談時間は45分までです。

対象となる主な疾患

診療科	対応可能疾患
母性内科	糖尿病、膠原病、重症高血圧症、血栓症既往、他ハイリスク妊娠になると思われる内科疾患合併例など
産科	ハイリスク妊娠、分娩
消化器・内分泌科	小児消化器、内分泌、肝疾患全般
血液・腫瘍科	小児血液・腫瘍(白血病、小児がん)、EBウイルス関連疾患(慢性活動性EBウイルス感染症など)
腎・代謝科	腎臓病、副甲状腺疾患、水・電解質異常(尿崩症など)、「糖尿病」と「骨系統疾患・代謝性骨疾患」
呼吸器・アレルギー科	気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、間質性肺炎、肺へモジデロシスなどの稀な呼吸器疾患
小児外科	小児外科疾患全般
脳神経外科	小児脳神経外科疾患全般
耳鼻咽喉科	小児耳鼻咽喉科疾患全般
整形外科	分娩麻痺、四肢先天異常、四肢変形、先天性内反足
心臓血管外科	先天性心疾患(末梢血管病変は除く)
泌尿器科	小児泌尿器科疾患全般
口腔外科	口唇裂・口蓋裂、言語治療、先天性疾患を伴う顎変形症
遺伝診療科	遺伝性疾患・染色体異常・遺伝かどうか不明な場合



申込方法

まずは患者支援センター(地域連携)にお問い合わせください。

電 話 | 0725-56-9890(直通)

受付時間 | 午前9時～午後5時
(土日祝日、12月29日～1月3日を除く)

*担当医と相談のうえ、対応の可否につきましてご回答いたします。

事前にご提出いただくもの

■セカンドオピニオン申込書

申込書の様式は大阪母子医療センターHP内

https://www.wch.opho.jp/data/media/opho/page/hospital/services/second_opinion/index/secondopinion.pdf
よりダウンロード

■主治医の診療情報提供書

■検査データ

(血液検査、CT・MRI等の画像診断のデータ、レントゲンフィルム等)

ICTを利用した地域連携ネットワークシステム 「南大阪MOCOネット」について

大阪母子医療センターでは、地域の医療機関と繋がる地域連携ネットワークシステムを構築することにより、診療情報（カルテ情報、画像、レポート等）の閲覧ができるようになりました。あらかじめ同意を頂いた患者さんについて、地域連携サーバを経由することにより地域の医療機関から当センターの診療情報をご覧いただくことができます。



セキュリティについて

当センターや、情報を参照する医療機関と地域連携サーバの間の通信は、暗号化によりセキュリティが確保されています。

情報を参照する医療機関側に必要なもの

インターネットに接続できるパソコンがあれば、「南大阪MOCOネット」をご利用いただけます。

【パソコンの環境条件】

- ① OSが、Windows 10以上であること
- ② ウイルス対策ソフトをインストールしていること。

情報参照していただけるもの（※対象とする患者さんや参照する医療機関により一部制限をさせていただきます）

- ・患者属性
- ・紹介医
- ・アレルギー
- ・感染症
- ・血液型、輸血に関する情報
- ・病歴
- ・身体計測
- ・バイタルサイン
- ・診療経過
- ・退院時要約
- ・病名
- ・入退院情報
- ・検査
- ・画像診断
- ・処方
- ・手術治療に関する情報
- ・放射線治療に関する情報
- ・リハビリテーション
- ・食事療法・栄養指導

利用の手続き

システム利用申込書等（様式4～6）の提出をお願いします。
以下のURLから様式をダウンロードいただき、ご記入の上、大阪母子医療センター患者支援センターへ郵送してください。

<https://www.wch.opho.jp/center/activities/moconet.html>

MOCOネット使用の事務手続き・同意書作成は、地域のかかりつけ医の先生にお願いしています。
ご不明な点がございましたら、当センターの患者支援センターにご連絡ください。

システム上での閲覧イメージ

カルテ画面

検査歴参照

画像参照

日付や分類（処方等）を選択することで
詳細内容を確認することができます。



診療実績（2024年）

病床数

（2025年4月1日現在）

産科病床 85 床
（MFICU 含む）

小児病床 198 床

NICU 21 床

GCU 21 床

PICU 18 床
（HCU 含む）

合計 343 床

初診外来患者数

18,732人

初診で受診された患者さんの
数を示しています。

新入院患者数

11,735人

1年間に当センターに入院した
患者さんの数を示しています。

1日平均外来患者数

749人

当センターに外来受診される患者さん
の1日平均人数を示しています。

手術件数

5,169件

当センターで入院して手術を行った
患者さんの数を示しています。
ただし、麻酔科医が関与した検査等も含んでいます。

分娩数

1,856人

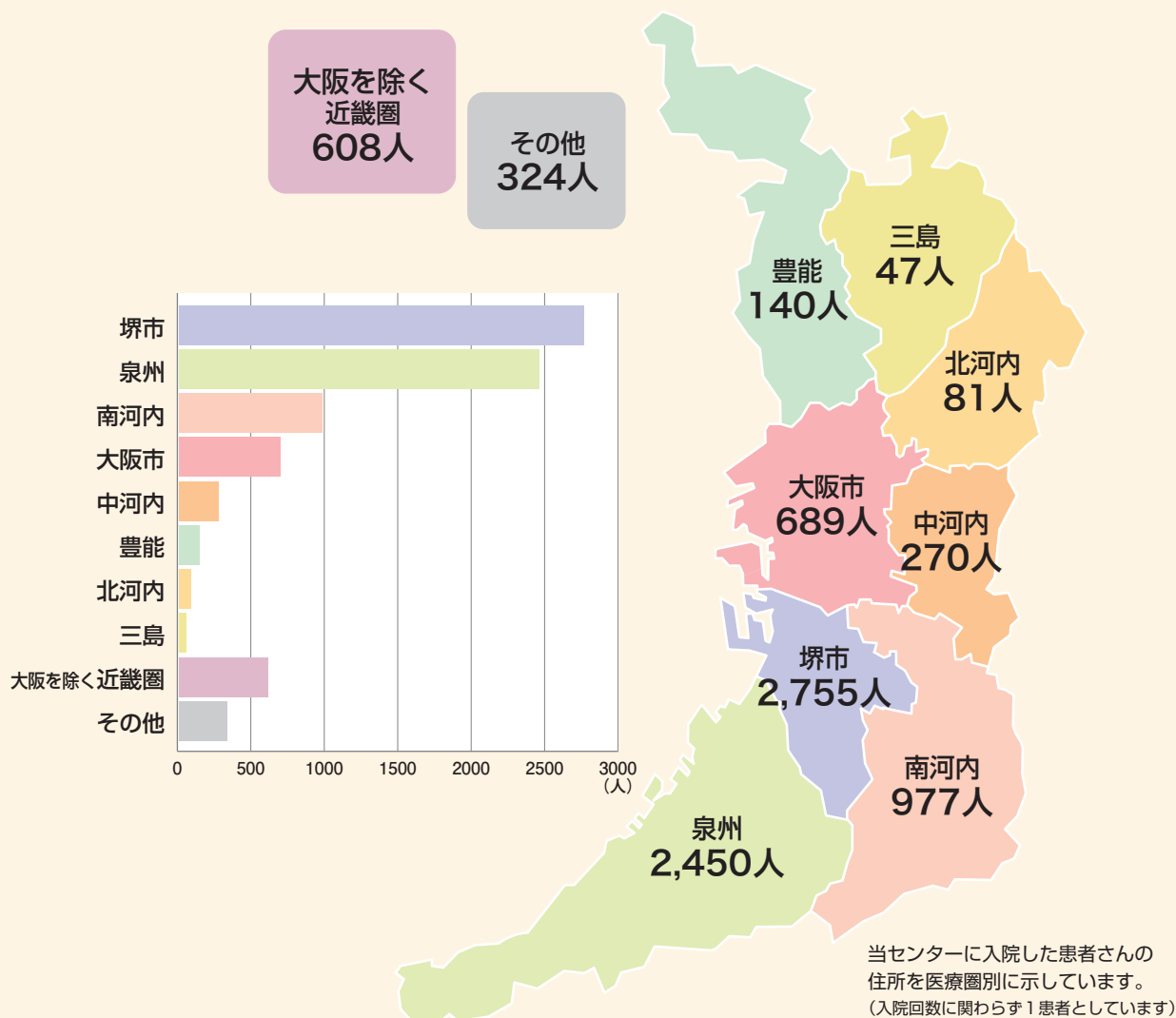
当センターで分娩した妊婦さんの数を示しています。
ただし、22週未満で流産した患者さんの数は除いています。

救急車搬送件数

1,058件

消防署の救急車、医師が同乗して搬送を行う当センターのドクターズ
カーなどの救急車で搬送された患者さんの数を示しています。

医療圏別入院実患者数



産科

診療科の概要

大阪府における周産期医療の中核施設の産科として、ハイリスクの母体および胎児への診療を行っています。一方、充実した医療スタッフ・設備を活用して、ローリスクの妊婦に対しても安心できる産科医療を提供しています。近年は24時間体制の無痛分娩を希望される妊婦が増えています。また、大阪府の母体搬送システム（OGCS）の基幹施設として、24時間体制で地域からの母体搬送症例を受け入れています。

主な対象疾患

◎母体管理を要する疾患

切迫流産・切迫早産・流早産期の前期破水・妊娠高血圧症候群・前置胎盤・常位胎盤早期剥離・既往帝王切開後妊娠の経腔分娩（TOLAC）・母体合併症妊娠（高血圧・糖尿病・妊娠糖尿病・甲状腺機能異常・自己免疫疾患など）

◎胎児管理を要する疾患

子宮内胎児発育不全・多胎妊娠・双胎間輸血症候群（TTTS）・血液型不適合妊娠・羊水過多・羊水過少・胎児疾患（心構造異常・不整脈、消化管閉鎖・横隔膜ヘルニア・臍帯ヘルニア・腹壁破裂・腫瘍、水腎症・尿管瘤・多嚢胞腎・下部尿路閉鎖、水頭症・脊髄髄膜瘤、口唇裂・口蓋裂、骨系統疾患など）

◎早産既往、不育症

◎無痛分娩希望

主な検査と治療

◎検査

ノンストレステスト（NST）、胎児超音波検査、胎児心臓超音波検査、胎児MRI検査、胎児CT検査、臍帯穿刺による胎児採血、NT検査、NIPT検査、母体血清マーカー検査、羊水検査、絨毛検査 など

◎治療

- ・子宮頸管無力症に対する子宮頸管縫縮術
- ・骨盤位に対する外回転術
- ・稽留流産に対する流産処置（MVA法）
- ・双胎間輸血症候群（TTTS）に対する、胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術（FLP）
- ・無心体双胎に対するラジオ波血流遮断術（RFA）
- ・胎児胸水に対する胸腔羊水腔シャント術
- ・下部尿路閉塞性疾患に対する膀胱羊水腔シャント術
- ・胎児貧血に対する胎児輸血
- ・気道確保困難な胎児に対するEXIT（ex utero intrapartum treatment）
- ・胎児頻脈性不整脈に対する薬物療法



専門外来（完全予約制）

多胎外来：火曜日・金曜日

双胎妊娠、三胎妊娠の包括的な管理を行っています。

胎児外来：月曜日・火曜日・木曜日

小児専門各科（新生児科・循環器内科・小児外科・泌尿器科・脳神経外科・口腔外科など）と連携し、疾患を持つ胎児の診断と妊娠中や出生後の治療計画の作成を行っています。

母体合併症外来：月曜日・水曜日・金曜日

糖尿病・高血圧・甲状腺疾患・自己免疫疾患等の合併症をもつ妊婦の管理を母性内科と連携のうえでを行っています。

出生前カウンセリング外来：火曜日・水曜日・金曜日

出生前診断についてのカウンセリングと検査を提供しています。

流早産予防外来：月曜日・木曜日

複数の流死産経験のある女性に対する不妊症検査や、早産既往の妊婦に対する包括的な管理を行っています。

胎児精密超音波外来：水曜日

セミオープンシステム登録施設で分娩予定の妊婦にも詳細な胎児超音波検査を提供しています。

診療実績（2024年）

分娩総数は1,856件（早産159件）、総出生児数は1,934人でした。そのうち無痛分娩は771件でした。専門外来の初診数は、多胎外来128件、胎児外来540件、出生前カウンセリング外来378件でした。胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術の治療件数は36件、その他の胎児治療は7件でした。母体搬送受け入れ件数は181件であり、切迫流早産・早産期の前期破水・前置胎盤・常位胎盤早期剥離・妊娠高血圧症候群・胎児機能不全といった母体・胎児の救急疾患に対応しました。



部長
林 周作



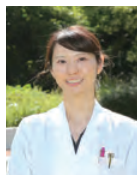
副部長
笹原 淳



副部長
山本 亮



副部長
川口 晴菜



副部長
山本 瑠美子



医長
和形 麻衣子



医長
吉元 千陽



診療主任
石田 久美子



診療主任
今井 統

新生児科

診療科の概要

総合周産期母子医療センターおよび大阪新生児診療相互援助システム(NMCS)の基幹病院として、超低出生体重児や重症の新生児疾患などを対象に、院外からも患者さんを受け入れ、24時間集中治療を行っています。超低出生体重児については、脳室内出血、慢性肺疾患、未熟児網膜症などの発症予防に努めるとともに、他の診療科と連携し、先天異常などを有する新生児の集学的治療から在宅移行まで、総合的にマネジメントしています。また、出生前の診療相談(プレネイタルカウンセリング)や、心理士・ケースワーカー・保健師などと連携した支援にも力を入れています。発育・発達の長期フォローアップも丁寧に行い、特に超低出生体重児では学齢期に心理・体力・呼吸機能・聴力などの評価も行っています。さらに、研究にも積極的に取り組み、国内外へ情報発信しています。

主な対象疾患

- ◎超低出生体重児などの早産・低出生体重児
- ◎多胎児(双子、三つ子)
- ◎呼吸器疾患・循環器疾患:気胸、胎便吸引症候群、肺出血、先天性心疾患など
- ◎中枢神経疾患:新生児けいれん、低酸素性虚血性脳症、水頭症など
- ◎先天異常:染色体異常、奇形症候群、胎児水腫、ポッター症候群、代謝異常症など
- ◎外科系疾患
- ◎その他:重症感染症、重症黄疸、血液・凝固異常、合併症を有するお母さんから生まれる新生児など



主な設備

新生児搬送用救急車、超音波診断装置、各種人工呼吸器(神経調節補助換気(NAVA)を含む)、一酸化窒素吸入用装置、低体温療法装置、aEEG脳機能モニター、広画角デジタル眼底カメラ(Ret Cam®)など



診療実績(2024年)

NICUへの入院患者数は536名で、出生体重別に1,000g未満25名、1,000～1,500g未満27名、1,500g以上484名。新生児緊急搬送は146件で、三角搬送(産科病院から他のNMCS施設へ)は109件でした。



診療科からのお知らせ

入院された患者さんは、状態が落ち着けば早期に地域の周産期センターなどに転院いただくことへのご協力をお願いいたします。また、退院後の予防接種や一般診療は、地域の医療機関における対応をお願いしています。



副院長
和田 和子



主任部長
望月 成隆



副部長
野崎 昌俊



副部長
平田 克弥



副部長
吉田 美寿々



診療主任
木本 裕香



診療主任
福田 沙矢香



診療主任
島 孝典



診療主任
高久保 圭二

母性内科

診療科の概要

妊婦および妊娠を希望する女性のための総合診療内科として、糖尿病、甲状腺疾患、自己免疫疾患などの内科合併症や、妊娠高血圧症候群など妊娠に伴う内科的疾患を中心に、薬剤リスクに関する専門知識や新しいエビデンスに基づく診療を産科と連携して行っています。また、妊娠前からの検査・管理（プレコンセプションケア）、出産後に変化する病態への対応（産後フォローアップ）のほか、妊娠中に顕在化する潜在的な生活習慣病に対する分娩後比較的長いスパンでの予防・管理を重視していることも母性内科診療の特徴です。

主な対象疾患

◎さまざまな内科合併症（妊娠前と出産後を含む）

- ・代謝疾患：糖尿病（1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病）、肥満症
- ・内分泌疾患：甲状腺機能異常症（バセドウ病、橋本病、潜在性甲状腺機能低下症）、下垂体機能低下症
- ・腎疾患：慢性腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全（透析を必要としない）
- ・自己免疫疾患：SLE、シェーグレン症候群、関節リウマチ
- ・循環器疾患：高血圧症（本態性、二次性）、不整脈、先天性心疾患
- ・呼吸器疾患：気管支喘息
- ・血液疾患：ITP、各種凝固障害
- ・精神・神経疾患：コントロールされているうつ病、パニック障害、てんかん
- ・消化器疾患：肝炎、潰瘍性大腸炎、逆流性食道炎

※対象疾患かどうか不明の場合は、電話でご相談ください。

※各種ウイルス疾患については、防疫体制を整える必要がありますので、受診前に電話でご相談ください。

◎その他、薬の相談・禁煙支援

主な検査と治療

◎検査

- ・抗SS-A抗体分画（52kD、60kD）検査
- ・持続グルコースモニタリング（CGM）
- ・尿中ニコチン定性試験、呼気中一酸化炭素濃度測定

◎治療

- ・糖尿病のインスリンポンプ
（持続皮下インスリン注入療法：CSII、リアルタイムCGM連動、自動補正機能搭載インスリンポンプ：AHCL）
- ・禁煙治療（保険診療）：行動療法、必要に応じて投薬（内服薬は現在出荷停止中）



専門外来

妊娠と薬外来 火曜日・木曜日

「妊娠と薬情報センター（国立成育医療研究センター内）」の関西拠点として、妊娠中や授乳中の薬剤療法に関する相談を受け付けています。

※「妊婦・授乳婦専門薬剤師（日本病院薬剤師会認定）」が対応します。

禁煙外来 火曜日

妊婦・授乳婦（妊娠前の希望者含む）、パートナー、小児の両親などの禁煙支援をしています。

プレコンセプションケア外来 月曜日・火曜日・木曜日

心療内科外来 月曜日・火曜日・水曜日・金曜日（各1～2回／月）

循環器外来 月曜日（1回／月）

膠原病外来 月曜日・水曜日（各2回／月）

腎臓外来 月曜日（1回／月）

それぞれの専門医（応援医師）が診療を行っています。

診療実績（2024年）

年間外来患者数12,630名（外来初診率13.8%）

〔入院患者内訳〕

- | | |
|--------------|---------------|
| ・糖・代謝疾患：320名 | ・消化器疾患：16名 |
| ・内分泌疾患：186名 | ・腎疾患：20名 |
| ・循環器疾患：68名 | ・アレルギー疾患：8名 |
| ・精神疾患：47名 | ・血液疾患：9名 |
| ・自己免疫疾患：21名 | ・感染症：4名 |
| ・神経・筋疾患：31名 | ・その他：2名 |
| ・呼吸器疾患：24名 | （入院患者合計：756名） |



主任部長
和栗 雅子



副部長
嶋田 真弓

消化器・内分泌科

診療科の概要

当科は小児の成長発育を支えることを診療の目標としています。小児消化器・肝臓疾患を専門に診療している医療機関は全国的にも少数であり、炎症性腸疾患や胃食道逆流症、重症便秘などの内科的疾患に加えて、胆道閉鎖症や短腸症候群なども小児外科と一緒に診療しています。また、小児のB型、C型肝炎の診療については近畿の中心的施設となっています。さらに栄養管理を必要とする重症心身障害児も広く受け入れ、経口摂取困難例や腸管機能不全の症例に対する在宅経腸栄養、在宅高カロリー輸液を積極的に行い、管理栄養士と協力して院内NSTの中心的な役割も担っています。内分泌疾患では、成長障害を有する小児の診断および治療、新生児マススクリーニング陽性者の対応に加え、性分化疾患については泌尿器科、子どものこころの診療科、心理士、看護師らとチームで取り組む体制を作っており、全国的にも高く評価されています。また、血液・腫瘍科とともに小児がん患者の長期フォローアップ外来を行い、晚期合併症の診断や治療をサポートしています。



主な対象疾患

◎消化管疾患

胃食道逆流症、短腸症候群、難治性下痢症（在宅経腸栄養・高カロリー輸液も含む）、慢性便秘、炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎、腸管バーチェットなど）、血便疾患（ポリプなど）、蛋白漏出性胃腸症、牛乳によるアレルギー性腸症、慢性偽性腸閉塞(CIPS)

◎肝臓疾患

B型肝炎、C型肝炎、劇症肝炎、胆道閉鎖症、ウイルソン病やシトリン欠損症(NICCD)、代謝機能障害関連脂肪肝炎(MASH)などの代謝性肝疾患、肝移植症例の移植前後の管理、アラジール症候群、進行性家族性肝内胆汁うっ滞症などの胆汁うっ滞性疾患

◎内分泌疾患

成長ホルモン分泌不全性低身長症、SGA性低身長症、甲状腺機能低下症・亢進症、汎下垂体機能低下症、先天性副腎過形成症、低血糖症、思春期早発症・遅発症、性腺機能低下症、性分化疾患、ターナー症候群、ヌーナン症候群

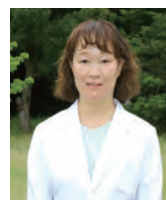
◎栄養疾患

生活習慣病、メタボリックシンドロームを有する肥満症、症候性肥満症（ブリーダー・ウイリ症候群など）、体重増加不良、摂食障害

診療実績(2024年)

初診患者数817名、再診患者数15,940名(実患者数4,912名)で、新入院患者数は741名

- ・成長ホルモン負荷テスト: 209件
- ・成長ホルモン治療: 429件
(うち新規成長ホルモン治療開始: 41件)
- ・上部消化管造影/十二指腸チューブ挿入: 44/21件
- ・24時間pHモニタリング: 18件
- ・上部消化管内視鏡検査: 179件
- ・下部消化管内視鏡検査: 142件
- ・ERCP: 1例
- ・カプセル内視鏡検査: 56件
- ・経皮的針肝生検: 9件
- ・病院全体で在宅IVH(経静脈的高カロリー輸液): 19件
および在宅成分栄養: 43件、小児経管栄養: 298件
(管理の中心は当科)



主任部長
恵谷 ゆり



副部長
川井 正信



副部長
萩原 真一郎



診療主任
佐浦 龍太郎

副部長
和田 珠希

腎・代謝科

診療科の概要

腎疾患、糖尿病、電解質異常症、骨ミネラル代謝異常症、骨系統疾患などを中心に診療を行っています。

腎疾患では血尿から腎炎・ネフローゼ、小児の透析療法・腎移植後の管理まで一貫した治療・管理を行っています。乳幼児期では施行困難な血液透析や腎生検にも対応可能です。学校検尿などで尿異常を指摘された場合もご相談ください。

腎疾患や糖尿病のように長期間の生活指導や精神的サポートが必要な小児に対しては、他科や心理士の協力を得て、トータルな治療を行います。

内科的治療が可能となってきた特定の骨系統疾患（軟骨無形成症、骨形成不全症、低ホスファターゼ症など）に対しても積極的に対応しています。

主な対象疾患

◎腎・尿路疾患

急性・慢性腎炎症候群、急性・慢性腎臓病、ネフローゼ症候群、先天性腎尿路異常、尿路感染症、溶血性尿毒症症候群、ループス腎炎、尿管機能異常症など

◎内分泌・代謝疾患

糖尿病・尿崩症・副甲状腺疾患・くる病・骨系統疾患（軟骨無形成症、軟骨低形成症、骨形成不全症、低ホスファターゼ症など）

腎生検や尿路の画像診断のみの依頼にも対応しています。ご相談ください。



主な検査と治療

◎検査

腎生検（幼児期から経皮的生検が可能です）、画像検査（超音波、VCUG、RI、CT、MR urography、骨密度測定など）、イヌリンクリアランス、水制限試験、24時間自由行動下血圧測定（ABPM）

◎治療

- ・慢性透析
（乳幼児期でも可能な在宅腹膜透析を主に行っています）
- ・急性血液浄化
（血液透析、血液ろ過、血漿交換、腹膜透析）
- ・重症腎疾患に対する多剤併用療法、ステロイドパルス療法、免疫抑制療法
- ・腎不全、骨系統疾患に対して成長ホルモン療法
- ・骨ミネラル代謝異常症、骨系統疾患に対してビスホスホネート療法や酵素補充療法、抗体療法、分子標的治療などの最先端の治療を行っています。



- ・インスリンが必要な糖尿病に対してはペンやインスリンポンプによる治療を行っています。

外来日

月曜日（午前、午後）・火曜日（午前、午後）・
水曜日（午前、午後）・木曜日（午前）・
金曜日（午前、午後）

診療実績（2024年） 一部重複あり

- ・腎炎・ネフローゼ：198名
- ・遺伝性腎疾患（腎性尿崩症、多発性嚢胞腎など）：67名
- ・腎・尿路異常：326名
- ・保存期慢性腎臓病：224名
- ・在宅腹膜透析：9名
- ・腎移植後：33名
- ・骨系統疾患：142名
- ・カルシウム・リン代謝異常症：64名
- ・中枢性尿崩症：25名
- ・1型糖尿病：29名
- ・2型糖尿病：8名

診療科からのお知らせ

小児期の難治性腎炎・ネフローゼや慢性腎臓病では、小児腎臓病専門医の関与が不可欠です。コンサルトのみにも応じています。

急性腎炎、ネフローゼ、急性腎障害、1型糖尿病など緊急入院が必要な場合にも可能な限り対応いたします。内科的治療が可能な骨ミネラル代謝異常症、骨系統疾患にも対応しています。お気軽に当科医師にご相談ください。



診療局長(兼)主任部長
窪田 拓生



副部長(兼)
道上 敏美



副部長
山村 なつみ



副部長
藤原 香緒里

血液・腫瘍科

診療科の概要

小児がん(白血病を含む)の8割前後に治癒を期待できるようになりました。その一方で、厳しい治療の影響による晩期合併症(後遺症)が小児がん経験者にとって新たな課題となっています。当科は難治症例に対して新規治療法開発による治療成績の向上を図るとともに、「後遺症なき治癒」をスローガンに、副作用の少ない骨髄非破壊的造血細胞移植(RIST)や免疫療法を導入し、治療関連晩期合併症を最小限に抑えることに取り組んでいます。

主な対象疾患

小児がん、造血障害、免疫不全症、自己免疫疾患、慢性活動性EBウイルス病(CAEBV)に代表されるEBウイルス関連疾患を中心に診療を行っています。



主な設備

移植用病床:22床
血液成分分離装置(骨髄濃縮、末梢血幹細胞採取)、造血細胞凍結保存機器、フローサイトメトリー(細胞表面抗原解析装置)、PCR装置(遺伝子解析装置)

主な検査と治療

小児がん、造血障害、免疫疾患、EBウイルス関連疾患の診療に必要な最新の検査が可能です。
白血病については、微小残存白血病細胞(MRD)を複数の検査法(白血病細胞特異的表面抗原検出検査、白血病特異的遺伝子定量PCR検査)で判定し、一人ひとりの治療効果を判断しながら方針を決めます。造血細胞移植は、骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植が可能で、HLA不適合移植にも取り組んでいます。
がん免疫細胞療法(CAR-T療法)も、2023年8月から可能となっています。



専門外来

通常外来:月曜日午前・火曜日午前・
木曜日午前・金曜日午前
化学療法外来:木曜日午後
長期フォローアップ外来:金曜日午後

診療実績(2024年)

初診患者数は129名で、半数以上が血液、腫瘍疾患でした。造血細胞移植数は14件で、同種は13件、すべてRISTでした。
親をドナーとするHLA半合致移植(ハプロ移植)は4件です。CAR-T療法は1件です。

診療科からのお知らせ

「小児がん・白血病ホットライン」を開設しています。医療機関・医療者を対象とする24時間体制の直通電話で、小児がん・白血病症例のご相談、ご紹介に血液・腫瘍科医師が対応させていただきます。
(患者さん・ご家族からの直接のご相談はご遠慮ください)

小児がん・白血病ホットライン

TEL:0725-57-7677 ※24時間受付直通電話



主任部長
澤田 明久



副部長
佐藤 真穂



副部長
樋口 紘平



医長
岡田 洋介



診療主任
井上 将太

脳神経内科

診療科の概要

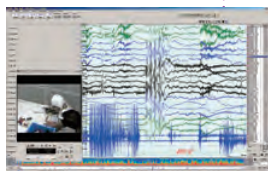
当科は2025年に小児神経科から脳神経内科へ名称を変更いたしました。診療内容としては従来通り、中枢神経系、末梢神経系、筋肉の疾患を対象に、最新の医療機器・設備を用いた正確な診断と適切な治療を目標にしています。けいれん、発達の遅れが多く、特に、乳児期発症のてんかん性脳症(ウエスト症候群、大田原症候群、早期ミオクロニー脳症等)の経験は豊富です。また、障がい児(重症心身障がい児、神経・筋疾患患者)のQOL向上を目指し、在宅医療のサポートもすすめています。

主な対象疾患

- ◎発作性疾患
てんかん、乳児けいれん、熱性けいれん、泣き入りひきつけ、片頭痛
- ◎知的障害、脳性麻痺、脳奇形
- ◎神経皮膚症候群
- ◎神経筋疾患
筋ジストロフィー、先天性ミオパチー、脊髄性筋萎縮症、重症筋無力症、ギラン・バレー症候群、遺伝性ニューロパチーなど
- ◎神経変性疾患
- ◎脳炎・脳症

主な設備

24時間ビデオ同時脳波記録が可能な病室(2室)があります。



主な検査と治療

脳波、心理検査、MRI・MRA(MRアンギオグラフ)・MRS(MRスペクトロスコピー)、CT、RI検査(SPECT)、電気生理検査(聴性脳幹反応、神経伝導速度、筋電図等)、髄液検査、筋生検



診療実績(2024年)

外来患者数は1日あたり約62名、1年間の初診患者597名、外来総患者数は15,047名で、年間の入院患者数は延べ10,888名、1日の平均入院患者数は29.8名です。乳児期てんかん性脳症の初診患者数は、1年間で10名です。脳波検査件数は、年間1,447件で、24時間ビデオ脳波検査は年311件行っています。

診療科からのお知らせ

当センターでは脊髄性筋萎縮症、進行性筋ジストロフィーの核酸医薬品による治療や遺伝子治療を行っています。早期診断、早期治療が重要です。筋緊張低下の小児を診察したときには、「しばらく経過を観ましょう」ではなく、当センターにすぐにご紹介ください。



主任部長
柳原 恵子



副部長
最上 友紀子



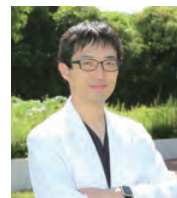
副部長
富永 康仁



副部長
木水 友一



診療主任
中島 健



診療主任
沖 啓祐

子どものこころの診療科

診療科の概要

子どものこころの診療科では、子どものこころに関する問題についての診療を行なっています。スタッフには医師と心理士がおり、チーム診療にあたっています。子どものこころの問題には医療で解決できない問題も多く含まれます。必要に応じて福祉、教育、保健などの関係機関とも連携し、環境調整を行います。



主な対象疾患

◎発達障害

自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害、学習障害など

◎心身症や神経症性障害

不安障害、強迫性障害、外傷後ストレス障害など

◎精神障害

気分障害など

◎慢性疾患などの身体疾患に伴う発達やこころの問題

◎親の育児不安や虐待など親子の関係性の問題

主な設備

診察室では、子どもに遊んでもらいながら、親子関係の観察などを行います。また、心理室でも親子の様子が観察できるようなビデオシステム導入を検討しています。



主な検査と治療

◎検査

心理士による発達・知能検査、性格検査などの心理検査、脳波、MRIなどの医学的検査を行います。

◎治療

必要に応じて助言や相談、カウンセリング的関与（子ども、親）、投薬治療、心理士による子どもの心理治療などを組み合わせて行っています。

診療実績(2024年)

2024年の初診患者数は382名でした。疾患群別では、発達や発達障害・行動の問題が309名、心身症・神経症が56名、精神障害6名でした。



診療科からのお知らせ

初診時の診療をスムーズにするために、初診の予約をいただいた際にアンケートをお送りしています。ご家族にてあらかじめアンケートにご記入いただき、初診当日は紹介状と一緒に持ちくださるようお願いいたします。



主任部長
小杉 恵



副部長
平山 哲



心理士
山川 咲子

遺伝診療科

診療科の概要

ダウン症候群などの染色体に関連した疾患やさまざまな先天性疾患・遺伝性疾患をお持ちのお子さんの総合的な診断、疾患の原因検索を行います。必要に応じて最新の遺伝学的検査を用います。他の診療科と連携して合併症の早期の把握や対応を進めます。また、遺伝に関する疑問や不安を解決するために専門の遺伝カウンセラーによる遺伝カウンセリングを実施しています。

主な対象疾患

- ◎染色体異常症、先天異常症候群、遺伝子異常症、各種先天性疾患の診断、遺伝カウンセリング
- ・染色体異常症や遺伝性疾患を疑われて検査をうけたが原因不明の場合、各種検査方法を用いて診断を検討します。
- ・その他、背景に遺伝要因の考えられる疾患はすべて対象になります。
- ・産科領域の遺伝カウンセリングも行います。産科と連携し、出生前診断などの遺伝カウンセリングに対応しています。
- ・各診療科で染色体検査や遺伝子診断をうける場合、検査の内容・意義について詳細に説明します。
- ・院内外での家族会、疾患ごとの勉強会なども開催、支援します。
- ・代謝異常の酵素補充療法も行っています。

主な検査

遺伝学的検査を実施します。遺伝学的検査には染色体検査や遺伝子検査が含まれます。遺伝診療科ではゲノム科学や最新の遺伝医学の成果を臨床の現場に還元・応用してゆくことを心がけています。検査にあたっては遺伝カウンセリングを行います。



専門外来

◎遺伝カウンセリング

先天性疾患・遺伝性疾患について医学的・科学的にわかりやすく説明し、医学的処置や検査の理解を支援し、必要な遺伝サービスや社会資源の利用ができるように援助します。遺伝に関する疑問、不安や悩みに対応します。

診療実績(2024年)

- ・初診患者数：636名
- ・再診患者数：5,371名
- ・遺伝カウンセリング件数：1,345件
- ・遺伝学的検査：774件

診療科からのお知らせ

- ①遺伝カウンセリングは随時受け付けますので、ご連絡ください。
- ②IRUD（未診断疾患イニシアチブ）研究に参加していますので、対象患者さんがおられましたらご紹介ください。



主任部長
岡本 伸彦



副部長
長谷川 結子



遺伝カウンセラー
松田 圭子

副部長
西 恵理子

呼吸器・アレルギー科

診療科の概要

一般的なアレルギー疾患の診療に加えて、小児呼吸器疾患を専門に診療している全国的にもまれな診療科です。

持続する喘鳴、咳嗽、無呼吸、呼吸障害、胸部レントゲン異常などの精査から間質性肺炎、肺へモジデロシス、気管狭窄や軟化症、気管支異物などのまれな疾患まで、呼吸の問題全般に対応しています。

実施している施設が少ない小児での気管支鏡、喉頭鏡検査の豊富な実績があり、また睡眠時無呼吸に対するPSG(ポリソムノグラフィー)も行っています。

アレルギー疾患については一般的な食物アレルギーや気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、アナフィラキシーなど、重症度にかかわらず対応しています。食物負荷テストは日帰り入院で検査を実施しています。喘息と診断がはっきりしない反復する咳嗽や喘鳴に対して呼吸機能検査、pHモニターなどの評価なども積極的に行っています。喘息／喘息疑い例の急性増悪時の入院対応も可能です。アレルギー性鼻炎に対しては舌下免疫療法も行っています。



主な検査

- ・気管支ファイバー件数：92件
- ・気管支肺胞洗浄：2件
- ・喉頭ファイバー件数：116件
- ・PSG検査：48件
- ・食物負荷テスト件数：109件



診療実績(2024年)

◎院外からの紹介症例

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ・食物アレルギー：41件 | ・気管・気管支軟化症：2件 |
| ・呼吸器感染症：38件 | ・無気肺／気管支拡張症：2件 |
| ・慢性咳嗽／喘鳴：31件 | ・突発性間質性肺炎：3件 |
| ・気管支喘息：16件 | ・突発性肺へモジデロシス：1件 |
| ・アトピー性皮膚炎／蕁麻疹：11件 | ・閉塞性細気管支炎：1件 |
| ・睡眠時無呼吸症候群：28件 | ・先天性肺胞低換気：1件 |
| ・喉頭軟化症：7件 | ・肺膿瘍：2件 |
| ・慢性呼吸不全：4件 | ・その他：11件 |
| ・アレルギー性鼻炎：3件 | |

計202件

◎院内からの紹介症例

- | | |
|-------------------|--------------|
| ・睡眠時無呼吸症候群：38件 | ・呼吸器感染症：4件 |
| ・呼吸器内視鏡依頼：22件 | ・気管支喘息：2件 |
| ・食物アレルギー：31件 | ・アレルギー性鼻炎：3件 |
| ・アトピー性皮膚炎／蕁麻疹：13件 | ・無気肺：2件 |
| ・慢性咳嗽／喘鳴：15件 | ・嚢胞性線維症：1件 |
| ・気道狭窄：15件 | ・新生児慢性肺疾患：2件 |
| ・慢性呼吸不全：15件 | ・その他：4件 |

計167件

- ・初診患者数：計356名(院外204名、院内152名)
- ・入院患者数：560名
- ・外来のべ患者数：4,708名

診療科からのお知らせ

初診外来は毎日実施しております。気管支喘息／喘息様気管支炎などの当日入院紹介、アナフィラキシー対応、喘鳴精査などで急ぎの場合は、予約枠意外でも随時対応していますのでご連絡ください。



主任部長
錦戸 知喜



診療主任
奥村 純平

循環器内科

診療科の概要

心臓血管外科、集中治療科と協力して先天性心疾患の、高度で専門的なチーム医療を行っています。新生児・乳児期早期の重症心疾患をはじめ、小児期すべての循環器疾患の診断・内科治療・管理を行います。さらに胎児診断を受けた重症心疾患については、産科・新生児科・小児外科・麻酔科・集中治療科と出生前カンファレンスを行い、最適な治療計画を立てて対応しています。

主な対象疾患

◎先天性心疾患、不整脈、心筋炎、心筋症、冠動脈後遺症を有する川崎病など



主な設備

心血管バイブレーション撮影システム
カルト・マッピングシステム
胎児診断専用心臓超音波診断装置：1台
心臓超音波診断装置：5台
ポータブル心臓超音波診断装置：2台
小児用経食道心エコープローブ
3D経食道心エコープローブ



主な検査と治療

胎児心臓超音波検査、心臓超音波検査、心臓カテーテル検査・カテーテル治療（心房中隔欠損、動脈管開存、カテーテル心筋焼灼術、その他）、ホルター心電図検査、トレッドミル運動負荷心電図検査、心臓造影CT検査、心臓MRI検査、各種RI検査

診療実績（2024年）

外来初診患者数は 588 名、うち循環器疾患は 389 名（先天性心疾患 226 名）、退院患者数（手術目的も含む）は 718 名。

- ・心臓超音波検査：5,038件
（うち胎児心臓超音波検査：206件）
- ・心臓カテーテル検査：396件
うち心臓カテーテル治療：164件
（アブレーション 33件を含む）
- ・ホルター心電図検査：321件
- ・トレッドミル運動負荷心電図検査：158件

診療科からのお知らせ

◎循環器疾患が疑われれば、まず循環器内科へご紹介ください。

心疾患ホットライン

TEL:0725-56-3833

（電話交換を通さず直接循環器内科医師につながります）

◎当科は初診日（月・火・木）に心臓超音波検査を含む諸検査を行い、結果を当日中に説明します。
午前10時ごろまでに来院するようにご説明をお願いします。

◎不整脈の検査・治療についても対応できますので、ご相談ください。（不整脈担当：青木 寿明）



主任部長
青木 寿明



副部長
石井 陽一郎



副部長
浅田 大



副部長
松尾 久美代



診療主任
森 雅啓

心臓血管外科

診療科の概要

循環器内科と協力して、先天性心疾患の治療を行っています。子どもたちが、外科治療後数十年にわたって快適な人生が送れるよう、必要な治療を適切な時期に行うことを心がけています。一回の外科治療で治すのではなく、複数回の外科治療（段階的手術）が必要になることもあります。外科治療を直ちに行うよりは、しばらく待機して行うほうがよいと考えられる場合もあり、就学年齢までに、最終の修復手術を終えることを目指しています。手術例の約半数は新生児や1歳未満の乳児です。また、循環器内科による胎児診断により、生まれる前から治療を計画し、出生後、直ちに内科治療、および外科治療を行うことも得意としています。



主な対象疾患

外科治療が必要と考えられる先天性心疾患すべてが対象です。手術件数は、単心室類似疾患、心室中隔欠損症、ファロー四徴症、心房中隔欠損症、房室中隔欠損症などが多いですが、そのほか、総肺静脈還流異常症、完全大血管転位症、左心低形成症候群、大動脈弓離断症などの、複雑心疾患も積極的に治療しています。低出生体重児の動脈管開存症にも、時期を逸することなく外科治療を行っています。また、当センターの特徴として、新生児期から外科治療を要する重症心疾患児が対象となることが多いですが、一方で、心内修復術後の成人期に達する患者さんまで、幅広く診療しています。



主な検査と治療

心臓カテーテル検査、心臓超音波検査、胸部CT検査などが、循環器内科、放射線科により行われ、循環器内科との合同カンファレンスにより、適切な外科治療方法、手術時期を決定します。手術は、人工心肺装置で全身循環を維持して心内修復を行う、いわゆる開心術と、心臓の外の血管を修復する非開心術にわかれます。非開心術には、動脈管結紮術、大動脈再建術の他、体動脈-肺動脈短絡術、肺動脈絞扼術などの準備手術があります。重症心不全や呼吸不全例に対しては、補助体外循環（ECMO）治療も行います。術後急性期には、集中治療室において、集中治療科と協力して治療をすすめます。急性期をすぎると、主に循環器内科と協力して治療を行います。退院後は、心臓血管外科と循環器内科で交互に外来診療を行います。

診療実績(2024年)

手術件数：280件

開心術：127件

非開心術：50件

心・大血管以外：103件



主任部長
津村 早苗



副部長
金谷 知潤



診療主任
谷本 和紀

小児外科

診療科の概要

当センターが1981年に周産期センターとして開設されたと同時に新生児外科の専門科として診療を開始しました。1991年に小児医療部門が増設されてからは、あらゆる年齢層のお子さんを対象に小児外科診療を行っています。関連各科と緊密に連携しながら、先天性横隔膜ヘルニアなど出生前診断された新生児外科疾患や、直腸肛門奇形、胆道閉鎖症やヒルシュスプルング病を始めとする各種消化器疾患、集学的治療における小児がん外科治療、急性虫垂炎などの小児救急疾患などに力を注いでいます。また、日帰り手術や内視鏡手術など、患者さんおよびご家族のQOLと利便性の向上を目指し、常に患児の健やかな将来を見据えた外科診療を追求しています。

主な対象疾患

- ◎低出生体重児に特有な疾患
壊死性腸炎、胎便関連性腸閉塞症、限局性腸穿孔
- ◎新生児呼吸器疾患
先天性横隔膜ヘルニア、先天性嚢胞性肺疾患（CPAM、肺分画症、気管支閉鎖症）
- ◎新生児消化器疾患
先天性食道閉鎖症、十二指腸閉鎖症、小腸閉鎖症、ヒルシュスプルング病、胎便性腹膜炎、腸回転異常症、直腸肛門奇形（鎖肛）
- ◎新生児腹壁形成異常
腹壁破裂、臍帯ヘルニア
- ◎消化器疾患
急性虫垂炎、肥厚性幽門狭窄症、胃食道逆流症、慢性便秘、短腸症候群、ヒルシュスプルング病類縁疾患
- ◎呼吸器疾患
漏斗胸、気胸、先天性気管狭窄症、声門下腔狭窄症、嚢胞性肺疾患、肺分画症
- ◎肝・胆・膵疾患
胆道閉鎖症、胆道拡張症、膵胆管合流異常症、胆石症
- ◎悪性固形腫瘍
神経芽腫、肝芽腫、ウィルムス腫瘍、横紋筋肉腫、肺芽腫
- ◎体表奇形・良性腫瘍
血管腫・血管奇形、リンパ管奇形、奇形腫（悪性含む）
- ◎その他日常疾患
鼠径ヘルニアおよび類縁疾患、臍ヘルニア、正中頸嚢胞・瘻、側頸嚢胞・瘻、痔瘻および類縁疾患

主な検査

画像検査：超音波、CT、MRI、RI、消化管造影
内視鏡検査：気管支鏡、消化管内視鏡、胸腔鏡・腹腔鏡を用いた検査
消化管機能検査：直腸肛門内圧検査、胃食道PHモニタリング、直腸粘膜生検



診療実績(2024年)

- ・初診患者数：586名
- ・入院（退院）患者数：388名
- ・総手術件数：482件
- ・新生児外科症例数：42件
- ・胎児診断症例数：29件
- ・新生児手術件数：39件
- ・鏡視下手術件数：194件



診療科からのお知らせ

小児外科では

- ・内視鏡下手術や傷跡が目立たない手術を積極的に行っています。
- ・患者さまや紹介医師に対して、丁寧な説明を心がけています。
- ・外科的救急疾患を積極的に取り扱っています。
- ・気管や肺など呼吸器外科疾患も積極的に取り扱っています。



主任部長
奈良 啓悟



副部長
銭谷 昌弘



副部長
梅田 聡



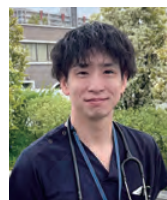
医長
野口 侑記



医長
樋渡 勝平



医員
西塔 翔吾



医員
増田 興我



医員
木下 雨宣

脳神経外科

診療科の概要

当科は1991年に開設され、国内でも数少ない小児脳神経外科の専門施設です。小児の脳と脊髄における、外科的疾患全般を取り扱っています。常勤医師3名（うち脳神経外科専門医2名）体制で、夜間、休日の救急にも対応しています。手術適応のない、頭部外傷の経過観察入院にも、積極的に対応しています。

主な対象疾患

外科的治療が必要と考えられる脳脊髄疾患はすべてが対象です。

- ・二分脊椎：脊髄髄膜瘤、脊髄脂肪腫など
- ・二分頭蓋：脳瘤など
- ・キアリ奇形
- ・水頭症：先天性水頭症、脳室内出血後水頭症内など
- ・のう胞性疾患：くも膜嚢胞など
- ・脳血管障害：もやもや病、脳動静脈奇形など
- ・頭蓋骨縫合早期癒合症：アペール症候群、三角頭蓋、非症候群性頭蓋骨縫合早期癒合症など
- ・脳脊髄腫瘍：髄芽腫、毛様細胞性星細胞腫、上衣腫など
- ・頭蓋骨腫瘍：類皮腫、ランゲルハンス細胞組織球症など
- ・頭部外傷：頭蓋骨骨折、陥没骨折、頭蓋内出血など
- ・中枢神経系感染症：脳膿瘍、脊髄膿瘍など
- ・痙縮：痙性斜頸、側湾症など
- ・難治性てんかん



専門外来

・てんかん外科外来（第3木曜日午後）

大阪大学脳神経外科のてんかんグループから月に1回専門医が派遣され、外来診察を行っています。手術が必要な場合は同医師と当センター医師が共同で手術を行います。

・‘あたまの形’ 外来（第1・2・4・5木曜日午後）

あたまのかたちが気になるお子さんの診察を行います。頭蓋骨縫合早期癒合症などの病的なものか、寝ている位置による位置的頭蓋変形かを診断します。後者の場合は、希望によりヘルメット矯正療法を当センターにて行います。

当外来は「紹介状なし」で受診が可能です。（患者さん自身で初診予約を取得できます。）

・痙縮外来

痙性斜頸や側湾症・下肢痙性に対する診察を行います。ボツリヌス毒素製剤療法（A型：ボトックス、B型：ナーブブロック）やバクロフェン髄注療法後の薬液補充を行います。

診療実績（2024年）

手術件数：144件

（二分脊椎：22件、脳脊髄腫瘍：8件、水頭症関連手術：48件、もやもや病：7件、てんかん手術：1件、その他：58件）

入院患者数：516名



主任部長
千葉 泰良



診療主任
中川 智義

泌尿器科

診療科の概要

先天性腎尿路・生殖器系疾患で、外科的治療が必要な子どもが対象です。新生児期・乳児期の泌尿器科疾患は、技術的な問題や麻酔・術後管理の問題で一般泌尿器科では扱えませんが、当科では小さな子どもに対しても適切な検査、手術が行えます。

主な対象疾患

◎腎尿路疾患

膀胱尿管逆流、先天性水腎症、巨大尿管、先天性後部尿道弁などの先天性疾患

◎外性器異常

男児の精巣、陰囊、陰茎の先天異常と女児の外陰部異常が対象となります。手術的治療が必要か、最適の手術時期はいつ頃か、などはその子どもの発育と密接に関係があり、なるべく早期に受診をお願いします。



主な検査と治療

◎検査

・腎尿路画像診断／ウロダイナミック検査

超音波断層検査、排尿時膀胱尿道造影、核医学検査が主たる検査です。また、CT、MRI、排泄性尿路造影などを必要に応じて行います。

下部尿路機能を詳しく調べるために、X線透視下のビデオウロダイナミック検査を施行します。腎および上部尿路を調べる目的では、核医学を利用した利尿レノグラフィー、腎シンチグラフィーを行います。

・内視鏡検査

下部尿路の器質的病変を調べるための尿道膀胱鏡検査と腹腔内を調べる腹腔鏡検査を行います。いずれも入院の上、全身麻酔を必要とします。



◎治療

・尿路・外性器形成術が主たる治療となります。手術は、困難で長時間を要する場合もあり、適切な入院期間が必要です。

・日帰り手術

停留精巣などの短時間で手術が終了する疾患が対象となります。

専門外来

トランジション外来：第4金曜日午後



診療実績(2024年)

2024年の年間初診患者数は717例で、近畿圏のみならず全国より紹介いただいております。手術件数は、年間382件で、なかでも膀胱尿管逆流に対する逆流防止術は28件（内視鏡手術を含む）、停留精巣に対する手術は104件、尿道下裂修復術は49件と国内では最も症例数が多い施設の一つです。



主任部長
松本 富美



副部長
松井 太



診療主任
藤本 幸太

整形外科

診療科の概要

子どもたちの運動器疾患を周産期から成長終了に至るまで、一貫して治療にあたっています。子どもたちの運動器疾患を周産期から成長終了に至るまで、一貫して治療にあたっていることは、他の施設にみられない特記すべき優位性です。特に四肢の先天異常の患者数・手術数は、小児病院の中でも多く、また、手や足の骨を延ばす骨延長術を用いて低身長の治療や脚長差の治療にもあたっています。一方、様々な変形や機能障害を起こしうる小児の骨折、特に難治性の骨折や変形治療、遷延治療に対しても積極的に手術を行っています。



主な対象疾患

新生児から成長終了までのすべての整形外科疾患を対象とします。

◎四肢の先天異常

多指症、合指症、裂手、橈側列欠損、腓骨列欠損、脛骨列欠損

◎骨系統疾患

小人症、骨形成不全症、軟骨無形成症、代謝性骨疾患

◎麻痺性疾患

分娩麻痺、腕神経叢麻痺、脳性麻痺、二分脊椎、末梢神経麻痺

◎股関節疾患

先天性股関節脱臼、大腿骨頭すべり症、ペルテス病

◎下肢変形

先天性内反足、外反扁平足、凹足、O脚、X脚

◎外傷、感染症

骨折、骨髄炎、化膿性関節炎、偽関節、外傷後変形

◎脚長差を呈する疾患

外傷後脚短縮、先天性脚短縮、片側肥大症

◎その他

腫瘍(骨腫瘍、軟部腫瘍)、筋性斜頸、側弯症、運動発達遅延

専門外来

小児整形外科では成人の整形外科と異なる多岐にわたる知識と経験が要求されます。特に、手足の先天異常、分娩麻痺、骨延長を専門としています。また、先天性内反足、先天性股関節脱臼、骨系統疾患も専門的に診ています。



診療実績(2024年)

初診患者数は 981 名、再診患者数は 8,606 名でした。
手術件数は 316 件でした。

診療科からのお知らせ

救急は、化膿性疾患や骨折などを受けています。
手術中・夜間・休日などでお引き受けできない場合がありますが、まずは、ご連絡ください。



副院長(兼)主任部長
樋口 周久



部長(兼)
田村 太資



副部長
大槻 大



医長
小林 雅人

眼科

診療科の概要

新生児から入学期までの乳幼児を主な対象としています。視機能の発達にとって最も大切な小児期の眼疾患に対する専門的な治療を行います。当科では斜視や先天白内障などの先天異常に対して早期に治療を開始し弱視の予防や治療を行ってきました。また、新生児科と協力した未熟児網膜症の治療も主要な診療です。

主な対象疾患

弱視、斜視（内斜視、外斜視、下斜筋過動症、麻痺性斜視など）、未熟児網膜症、先天白内障、眼瞼疾患（内反症、眼瞼下垂）、涙道疾患など。

主な検査と治療

◎ 検 査

視力、PL 視力、屈折検査、眼位、眼球運動、両眼視機能、眼圧、色覚、視野、コンタクトレンズ、電気生理(ERG、VEP、EOG)、OCT、ロービジョン、放射線画像診断(CT、MRI、RI)

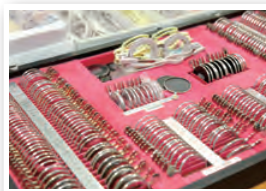
◎ 治 療

- ・内斜視は2～3歳頃、外斜視は5歳以後に手術を行い、その他の斜視では諸検査による評価が可能になった時点で手術を行います。
- ・眼瞼内反症は、角膜障害の強いものに対して手術を行います。先天性の重症眼瞼下垂では、弱視の予防のため早期から吊り上げ手術を行います。
- ・先天白内障は、2歳まではハードコンタクトレンズによる弱視の治療を行います。2歳以上にできれば眼内レンズの挿入術が第一選択になります。
- ・未熟児網膜症は当院NICUに入院した未熟児を対象として、レーザー光凝固、硝子体注射、網膜剥離手術などを行っています。



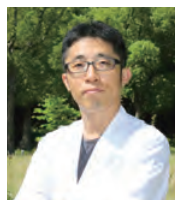
専門外来

- ◎ コンタクトレンズ外来
- ◎ 視能訓練外来



診療実績(2024年)

初診患者数は約890名、再診患者数は約6,700名です。手術件数は約190件で、過半数が斜視に関するもので、先天白内障、未熟児網膜症、眼瞼疾患などがそれぞれ10～50件となっています。



副部長
遠藤 高生



視能訓練士
石坂 真美

耳鼻咽喉科

診療科の概要

小児耳鼻咽喉科疾患全般を対象としています。当科では小児難聴、小児気道疾患に対する診療体制が整っています。小児難聴については、ABR、ASSR（気導・骨導）を備え、補聴器適応症例では地域の療育施設と連携をはかりながら、早期診断、早期介入を行っています。鼓膜チューブ挿入術、鼓室形成術、人工内耳埋込術を行っており、鼓室形成術では、症例に応じて内視鏡下で低侵襲に行っています。小児気道疾患については、麻酔科の協力のもと、症例に応じて非挿管全身麻酔・自発換気下での検査・治療も行っており、当科の特徴となっています。

入院に、保護者の付き添いは必須ではなく、可能な限り短期入院を心がけています。

主な対象疾患

耳疾患（難聴、滲出性中耳炎、真珠腫性中耳炎、慢性中耳炎）、気道疾患（睡眠時無呼吸症候群、口蓋扁桃肥大、アデノイド増殖症、喉頭軟化症、気道血管腫、気道乳頭腫、気道異物）、嚥下障害、先天性耳瘻孔、舌小帯短縮症、正中頸嚢胞、梨状窩瘻など

主な検査

[耳疾患]

聴力検査：標準純音、幼児遊戯、聴性行動反応（BOA）、条件詮索反応（COR）、語音、聴性脳幹反応検査（ABR）、聴性定常反応検査（ASSR、気導、骨導）、ティンパノメトリー、耳音響放射（OAE）、難聴遺伝子検査

[気道疾患]

非挿管全身麻酔・自発換気下でのファイバースコープ（喉頭、気管）、喉頭直達鏡、気管支鏡



専門外来

- ◎補聴器外来：第2・4木曜日 午後
- ◎気管カニューレ外来：火曜日 終日
木曜日 午前

診療実績（2024年）

- ・初診患者数：962名
- ・再診患者数：15,193名
- ・新入院患者数：539名
- ・手術件数：578件

- [主な手術]
- 鼓室形成術：32件
 - 乳突削開術：2件
 - 鼓膜チューブ挿入：381件
 - 人工内耳植込術：3件
 - 耳瘻孔摘出術：8件
 - 口蓋扁桃摘出術：232件
 - アデノイド切除術：255件
 - 声門上形成術：4件
 - 気管支鏡検査：27件
 - 気管切開術：14件
 - 喉頭気管分離術：9件



診療科からのお知らせ

ABR、ASSR検査は予約検査となっており、初診日に検査をすることはできません。



主任部長
岡崎 鈴代



診療主任
上野 裕也



言語聴覚士
大黒 里味



言語聴覚士
藤川 佳織

形成外科

診療科の概要

形成外科とは、形を造る外科です。具体的には先天異常あるいは後天性疾患によって身体外表に現れた変形を、形態的並びに機能的に修復、再建することを目的とした外科の一分野です。

顔面・体幹・四肢の外表奇形などの先天異常や、外傷・熱傷・手術後瘢痕などの後天性変形を主な対象疾患としています。

主な対象疾患

◎顔面・体幹・四肢の外表異常（先天奇形）

唇裂、眼瞼下垂、耳介や鼻の変形、小耳症、手指・足趾の異常、女性化乳房、臍ヘルニア（でべそ）、瘻孔（耳、頸部、仙骨部等）

◎母斑、皮膚腫瘍

血管腫（赤あざ）、扁平母斑（茶あざ）、色素性母斑、脂腺母斑、太田母斑など

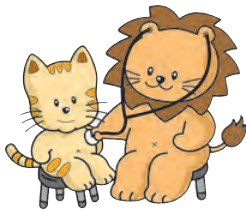
◎けが一般（特に顔面）、瘢痕（傷あと）、顔面骨骨折、 瘢痕拘縮（引きつれ）、皮膚潰瘍、ケロイドなど

◎潰瘍、褥瘡

難治性潰瘍の外科的治療

◎その他の変形

頭蓋、顔面骨の形成異常、無（小）眼球症、リンパ管腫など



主な治療

- 手術による外表異常（先天奇形や後天性変形）の修正
機能的改善のみならず、整容面での満足も得られる治療をめざしています。特に先天性眼瞼下垂、臍ヘルニア（でべそ）、頭部脂腺母斑については独自の治療を行っており、良好な結果が得られています。



[レーザーによる治療風景]

・各種レーザーによる母斑（あざ）の治療

色素レーザー、Qスイッチ-アレキサンドライトレーザー、炭酸ガスレーザーを駆使し、場合によっては局所麻酔や全身麻酔を併用して、可能な限り疼痛を少なくしながら治療を行っています。

・褥瘡・難治性潰瘍に対する治療

持続吸引療法や創傷被覆材などを用いた保存的治療と皮弁形成術などによる外科的治療とを組み合わせで治療にあたっています。

特にいちご状血管腫（乳児血管腫）に対しては、患者さんの状態に応じて従来のレーザー治療か、新しい治療法であるヘマンジオルの内服治療を選択して対応しています。

診療実績（2024年）

年間初診患者数は1,117名、入院患者数は396名です。手術数は患者が子どもであるため、全身麻酔によるものが大部分で年間380件です。

手術は、母斑（あざ）、良性腫瘍の治療の他、先天性眼瞼下垂や臍ヘルニア（でべそ）、小耳症を含む耳介の異常、手指・足趾の先天異常など、対象疾患は多岐にわたります。

外来は通常の形成外科の外来の他にレーザー専門外来、皮膚科外来を併設しています。



診療局長(兼)主任部長
吉岡 直人

診療主任
白石 万紀子

口腔外科

診療科の概要

唇裂・口蓋裂の総合治療を目的として1987年に開設。口腔外科、矯正歯科および言語治療の専門スタッフが口腔外科に集まり、周産期・小児病院の特徴を生かした、長期間の唇裂口蓋裂総合一貫治療を行う体制を確立しています。

主な対象疾患

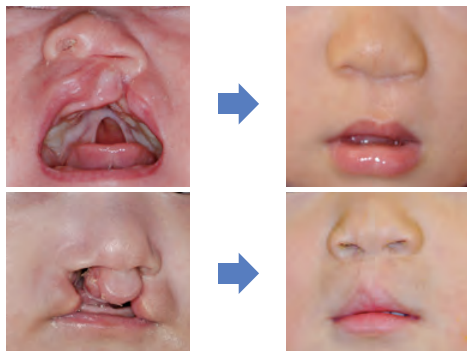
唇裂・口蓋裂、顎口腔領域の先天異常、小児の口腔外科疾患（口腔腫瘍、のう胞、外傷、顎変形症、埋伏歯、小帯異常等）、小児の音声言語障害

主な設備

コーンビームCT、鼻咽腔内視鏡、セファロレントゲン装置、三次元模型測定機、舌口蓋接触記録装置、手術用内視鏡システム

主な検査と治療

唇裂・口蓋裂手術、顎形成異常に対する集学的治療、唇裂口蓋裂に起因する咬合異常に対する矯正歯科治療、口蓋裂児の言語治療、鼻咽腔閉鎖不全の診断、嚥下障害の診断



片側性唇顎裂および両側性唇顎口蓋裂の症例に対して生後3～4ヵ月での口唇形成術（いずれも1回の手術）を行った例。

専門外来

唇裂口蓋裂外来、矯正歯科外来、音声言語外来



診療実績(2024年)

当科を受診した唇裂・口蓋裂患者数（一次症例）は46名で手術件数は412件、そのうち唇裂口蓋裂関連手術は199件です。

◎唇裂・口蓋裂関連手術

- ・唇裂一次手術：25件
- ・口蓋裂一次手術：46件
- ・唇裂二次手術：56件
- ・顎裂部骨移植術：31件
- ・咽頭弁形成術：2件

◎その他の手術

- ・抜歯術：95件
- ・小帯延長術：20件
- ・のう胞摘出術：8件
- ・埋伏歯開窓術：7件
- ・腫瘍切除・摘出術：15件
- ・舌形成術：8件
- ・外傷創縫合術：4件 など

診療科からのお知らせ

胎児診断で唇裂口蓋裂の疑いが指摘された場合は、出生前に口腔外科で治療についての説明をしています。



主任部長
山西 整



副部長
上松 節子



診療主任
横山 美佳



医長
原 崇之



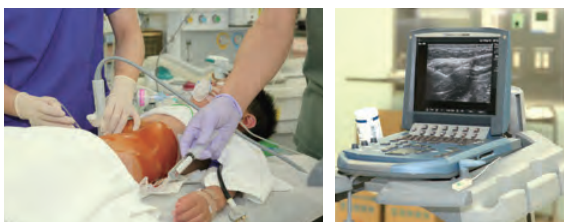
言語聴覚士
井上 直子

麻酔科

小児麻酔部門／産科麻酔部門

診療科の概要

様々な疾患の小児・産科患者を対象に、安全で快適に手術や検査が受けられるよう、麻酔・全身管理を行っています。小児ではほとんどの場合、手術を全身麻酔下に行いますが、神経ブロックを併用するなど、術後疼痛の軽減に工夫をしています。心臓カテーテルやMRI検査の鎮静も麻酔科が担当しています。また24時間体制で妊産婦の帝王切開術や無痛分娩の麻酔に対応しています。



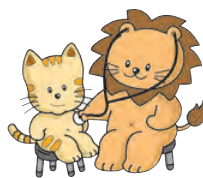
主な対象疾患

対象疾患は多岐にわたります。各科が周産期・小児の高度医療を担っていることに対応し、麻酔も専門性が要求される症例が多くなっています。特色のあるものとしては、母体・新生児搬送による新生児外科症例、先天性心疾患、口唇口蓋裂、分娩麻痺、先天性尿路・性器疾患、未熟児網膜症、気道異物、先天性奇形症候群を合併した症例などです。産科麻酔ではハイリスク胎児・妊産婦における帝王切開術や胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術などの周産期麻酔のほか、分娩部での無痛分娩の麻酔も担当しています。



診療実績(2024年)

2024年の麻酔科管理症例数は5,779件でした。小児麻酔(産科以外の成人症例も含む)件数は4,415件で、新生児症例は107件でした。産科麻酔症例は1,364件で、帝王切開術が465件、双胎間輸血症候群に対する胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術が38件、無痛分娩の麻酔管理が786件でした。



統括診療局長(兼)主任部長
橘 一也



副部長
竹下 淳



医 長
濱場 啓史



診療主任
阪上 愛



診療主任
岡口 千夏

診療主任
征矢 尚美

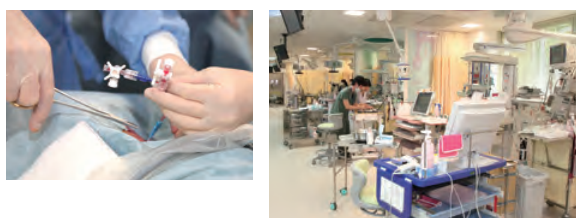
診療主任
栗畑 綾香

集中治療科

診療科の概要

小児集中治療室（PICU）にて、専門科を問わず重症疾患に罹患した患者さんの集中治療を行っています。心臓外科・小児外科などの術後管理、先天性心疾患や内科疾患の全身管理のほか、院内や他院で発生した重症患者さんの受け入れも行っています。

集中治療科は、専属医師15人と院内ローテート医1～2名で、10床の集中治療病床と8床のステップダウン病床を、24時間365日、診療にあたっています。他院からの研修も受け入れています。



主な対象疾患

◎外科疾患

先天性心疾患（単心室、左心低形成症候群、総肺静脈還流異常症、ファロー四徴症、完全大血管転位など）、新生児を含めた小児外科疾患（先天性横隔膜ヘルニア、臍帯ヘルニア、消化管閉鎖、消化管穿孔・出血、漏斗胸、胆道閉鎖、先天性肺気道奇形など）、脳外科疾患（脳腫瘍、頭蓋骨早期癒合症など）、整形外科疾患（神経移植など）の周術期管理。

◎内科疾患

肺炎やARDS（急性呼吸窮迫症候群）などによる重症呼吸不全、敗血症性ショック、心肺停止蘇生後の全身管理、血液・悪性腫瘍の呼吸・循環管理、神経筋疾患の呼吸不全、急性脳炎・脳症、けいれん重積など。

◎疾患内訳

集中治療室入室症例は例年800例程度で、昨年は820例でした。集中治療室に入室した疾患内訳は図1のとおりです。人工呼吸管理したのは475例（58%）を占め、人工肺とポンプを用いた体外循環回路による治療（ECMO）を行ったのは5例でした。他院から紹介される患者さんも83例あり、地域医療にも貢献しています。



診療実績（2024年）

診療成績は、図2のとおりで、常に予測死亡率を下回っています。人工呼吸をはじめ、持続血液ろ過透析や、一酸化窒素吸入療法、窒素吸入療法、脳低温／平温療法、ECMOなども行っています。

図1 ICU入室患者の内訳（2024年）

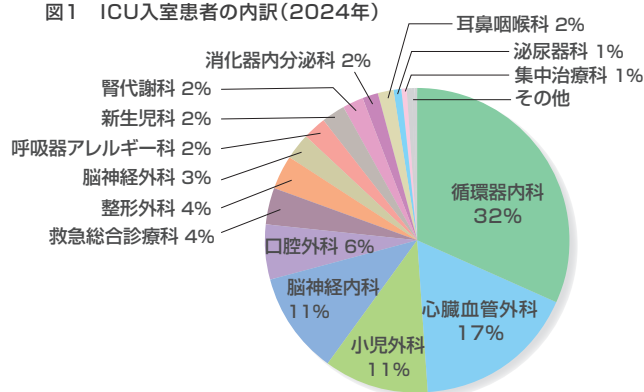


図2 予測死亡率（PIM2）と実死亡率の年次推移

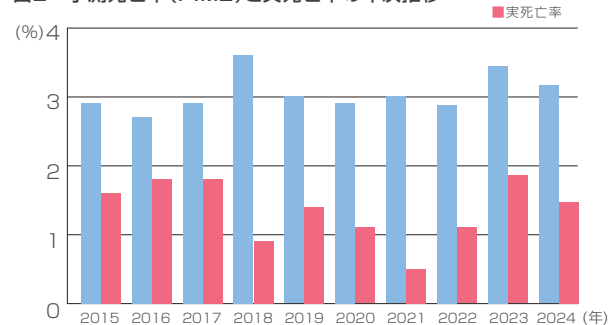
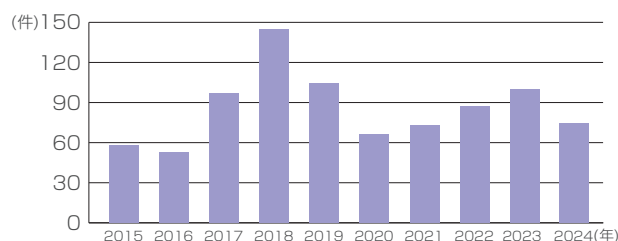


図3 他院からの搬送症例数



診療局長(兼)主任部長
清水 義之

副部長
川村 篤
副部長
井坂 華奈子
副部長
祖父江 俊樹

医長
赤松 貴彬
診療主任
西垣 厚
診療主任
藤崎 拓也

周産期・小児感染症科

診療科の概要

2020年4月、大阪母子医療センターに感染症科が立ち上がりました。全国的にも数少ない周産期・小児領域を専門として種々の病態、種々の臓器、種々の起病因菌によって発生した感染症に対して、包括的に診療を行っています。具体的には、感染症に対して、適切な評価に基づいた病態の把握、適正な抗菌薬の使用を支援する抗菌薬適正使用支援チーム（AST）、感染伝播・防御対策としての感染制御チーム（ICT）、多彩な検査技術によって原因微生物の特定にあたる細菌検査室、抗菌薬の管理、監査にあたる薬剤部とともに総力を結集して感染症診療を行います。各診療科における治療と並行して生じる感染症治療、感染予防を担い、患者様とそのご家族の皆さんに対する、当センターの医療レベルのより一層の向上に寄与できると考えています。

2023年度は専属医師が1名加わりました。また、診療科の呼称を周産期・小児感染症科に改めました。産科、新生児科、内科系・外科系各診療科の感染症に対応しています。2024年度は院内380例以上の感染症治療を行いました。また、各種病原体に対する感染防止について助言を行いました。

主な対象疾患

- ◎母体ならびに新生児集中治療部門における感染症
- ◎小児集中治療、周術期における感染症
- ◎各専門治療部署における感染症



主な検査と治療

細菌検査室において、通常の細菌検査に加え、菌の耐性遺伝子を用いた耐性菌伝播の有無、マルチプレックスPCR技術を用いた網羅的な病原体検索、また、2025年度からは質量分析装置を用いた微生物同定検査を行なっています。これらを用いて、迅速かつ適正な感染症治療につなげています。当センター研究所と連携し、感染症に対する分子生物学的な解析も行っています。



診療科からのお知らせ

◎周産期・小児感染症科は院内の感染診療に対応しています。



部長（兼）
野崎 昌俊



副部長（兼）
樋口 紘平



診療主任
谷口 公啓

救急・総合診療科

診療科の概要

当センターは2018年に「小児救命救急センター」の指定を受け、重症の小児患者さんの「最後の砦」として救命救急医療に取り組んできました。また、地域の小児救急体制の維持は年々困難になってきており、2022年より泉州地域の小児救急輪番制に参加し、様々な小児救急疾患にも対応しています。重症の患者さんや専門的な疾患のみならず、幅広く小児の救急疾患に対応するため2024年より「救急・総合診療科」の診療を開始しました。



対象疾患

肺炎や胃腸炎など小児に多い感染症、けいれんやアレルギーなどの救急疾患に幅広く対応するとともに、救急車の受け入れや、地域の病院で対応が難しくなった重症の患者さんにも各専門診療科と協力して対応しています。また、病名がはっきりしないなどで診療科が明確でない場合でも、一旦診察をさせて頂き、必要に応じて各専門診療科へつなぐ「窓口」の役割も担っています。したがって対象疾患は限定していません。

診療実績(2024年)

2024年度には救急輪番制において月2回を担当し、救急車173台を受け入れ、初期救急広域センターからの入院依頼や直接の受診を含め年間512名の救急患者さんを受け入れています。



診療体制について

現在は患者さんからの直接の受診依頼は受けていませんが、かかりつけのクリニックや地域の病院からの受け入れは随時行っています。

当センターでは内科系、外科系診療科のほか、集中治療科や麻酔科のバックアップのもと24時間365日、軽症から最重症の患者さんまで対応が可能です。また、入院にあたってご家族の付き添いが難しいなど家庭の事情にも配慮できますので、随時「救急・総合診療科」にご相談ください。

現在は2名体制ですが、来年度からは診療体制をさらに充実させ、各診療科とともに軽症から重症まで、内科／外科疾患などあらゆる状態のお子さんにいつでも対応できることを目指し、子どもたちの笑顔を増やすことができればと考えています。

診療科からのお知らせ

重症や緊急の対応が必要なときは
PICUホットラインにご連絡ください

TEL:0725-56-1070
(24時間365日対応)



主任部長
旗智 武志

診療主任
五嶋 嶺

放射線科

診療科の概要

常勤の放射線診断専門医により、超音波検査、CT検査、MR検査による断層画像検査を中心に、他のモダリティをあわせて総合画像診断を行っています。

RI検査は近畿大学から、放射線治療は奈良県立医科大学からの専門医による応援をうけ、それぞれ精度の高い診断、治療を行っています。

当科で行う超音波検査は、胎児（産科・検査科で施行）と心臓（小児循環器科・検査科で施行）をのぞいた全身の臓器、部位を対象としており、放射線被曝を伴わないことや、適応範囲の広さや情報量の多さなどの利点から、小児に非常に有用な検査として特に力を入れて行っています。また、タブレット端末による遠隔画像システムを導入し、放射線科医が院内に不在の時も院外から主治医に読影所見を伝えることが可能となっています。

※診療実績および主な設備は、「放射線部門」のページをご覧ください。



診療科からのお知らせ

◎他の医療機関からのご依頼を受け、下記の画像検査および放射線治療を行っています。

- ・CT検査・MR検査（検査センター）
- ・乳房手術後の放射線治療

詳しくは、当センターホームページ
[医療機関のみなさまへ] をご覧ください。



部長
市田 和香子

リハビリテーション科

診療科の概要

整形外科や小児神経科、遺伝診療科、血液腫瘍科など当センター他科から紹介された入院患者さんを中心に診察し、適切なリハビリテーションを処方します。またリハビリテーション実施中も、患者さんの機能回復の一助となるよう、定期的に診察を行っています。さらに、目標を達成しリハビリテーションを終了した患者さんに対しても、成長の過程で新たな課題が出てこないかを、診察にてフォローしています。当センターのリハビリテーション科は、「早期のリハビリテーション介入」を重要な任務と位置づけ、地域のリハビリテーション実施施設との連携をとりつつ、患者さんが住まれる地域でのリハビリテーションへの、「速やかな移行」を目指しています。また、装具や車いす、座位保持装置、歩行器などの作成を通じて、障害を持つ子どもたちの社会参加を促す援助も行っています。2024年4月現在、リハビリテーション科には医師2名、リハ・育療支援部門には理学療法士5名、作業療法士4名、言語聴覚士4名が在籍しています。

主な対象疾患

当科では、脳や脊髄あるいは手足に何らかの障害を持ち、正常な運動発達が妨げられる可能性のある子どもに対して、機能向上・社会参加を目指してリハビリテーションの導入をしています。また最近では、呼吸に障害をもつ子どもたちや、小児がんを患った子どもたちへのリハビリテーションにも介入しています。

診療実績(2024年)

2024年は新規患者のべ669名（理学療法389名・作業療法280名）で、外来からの紹介31名、入院での紹介658名でした。



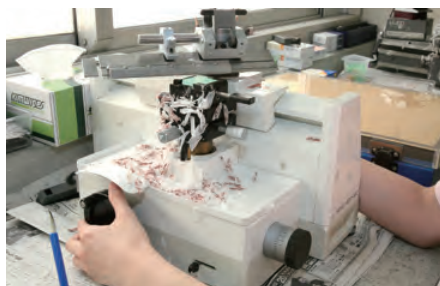
主任部長
田村 太資



病理診断科

診療科の概要

適切な質の高い診療や治療を受けるためには、正確な「診断」を確実に行わなければなりません。その「診断」をする際に、「病理診断」は大きな役割を果たします。われわれ病理診断科は、病理医を中心にこの「病理診断」を行っています。周産期センターであり小児病院でもある当センターは、一般総合病院と違って対象は、胎児から新生児、小児、若年者（AYA世代）および妊産婦が罹患するすべての疾患となります。胎児および新生児の病理解剖、胎盤、小児がん、不育症など病理診断も扱っています。



主な検査

- ・病理解剖
- ・胎盤検査
- ・生検組織診断
- ・手術で摘出された臓器・組織の診断
- ・手術中の迅速診断
- ・細胞診断



主任部長
竹内 真

病理診断科／臨床検査科

臨床検査科

診療科の概要

検体検査、生理検査、輸血・細胞管理、先天性代謝異常等（マススクリーニング）検査で構成され、24時間体制で微量検体で輸血検査を含む多数の検査項目にリアルタイムに対応し報告しています。検体検査では精度管理責任者のもと、日々精度、確度の確認を行っています。微生物検査室ではAST・ICTの一員として、感染症科と協力して起炎菌を推定し適正治療に取り組んだり、院内感染対策にも貢献しています。マススクリーニング検査は、大阪府下の新生児を対象に公費検査をし学会認定技師が詳細な分析をしています。年間約4万件のSCIDとSMAの有償の検査を経て公費化に向けた実証事業中です。現在、ライソゾーム病の有償検査を行っています。輸血・細胞管理室では自己血採血を担当するとともに、担



当医と協力して、非血縁間末梢血幹細胞移植のための末梢血幹細胞採取と、その細胞数測定を年間30件程度行っています。



主任部長
位田 忍



輸血・細胞管理室長（兼）
澤田 明久



副部長（兼）
柳原 格

薬 局

概要

安全で有効な薬物療法の支援

当センターでは、新生児から乳幼児、AYA世代、そして妊婦まで個々の患者さんに合った適切な薬剤の交付と情報の提供を実践しています。年齢、体重等による薬の投与量の確認はもとより、専門的な知識を活かして、患者さんに合った薬の剤形の提案等を行っています。

主な業務

◎調剤 散剤が中心となる内服薬の調剤においては、オーダリングシステム、監査システムを導入し、また注射薬については、バーコード管理システム、アンブルピッカーの導入により、患者毎に正確な調剤を提供しています。

◎無菌調製 抗がん剤や中心静脈から投与される薬を薬剤師が無菌調製し、提供しています。

◎持参薬確認 入退院センターにおいて、薬剤師が患者さんおよびご家族と直接面談の上、持参薬を確認し、薬学的管理を行っています。

◎薬剤管理指導 主に周産期病棟、小児病棟の入院患者さんに薬の飲み方や効能効果、副作用について説明し、薬の副作用の確認も行っています。

◎医薬品情報提供 DI室(医薬品情報室)を設置し、医薬品等に関する情報を迅速に院内周知し、患者さんや医療スタッフからの問い合わせ等にも適宜対応しています。



◎医薬品管理 SPDシステム(院内物流管理システム)を導入し、医薬品の適正な在庫管理を行っています。

◎治験薬管理

当センターは「小児治験ネットワーク」の登録施設であり、小児用医薬品の早期開発に寄与するため、薬剤師が適切な治験薬の調剤・保管・管理を行っています。



◎妊娠と薬外来

厚生労働省事業である「妊娠と薬情報センター」の拠点病院として、妊婦または妊娠を希望する相談者を対象に、妊娠中の服用薬に関する胎児へのリスク評価について最新のデータをもとに説明し、支援しています。

◎研修受入

小児薬物療法認定薬剤師、妊婦・授乳婦専門薬剤師の研修施設として専門的な薬剤師の育成に努めるとともに、薬学生の長期実務実習の受け入れも行っています。



薬局長
井上 聡子

業務体制

常勤薬剤師23名、非常勤薬剤師5名、
調剤補助者5名

臨床検査部門

概要

検体検査、生理検査、輸血・細胞管理、病理検査、マスキニング検査で構成されています。24時間体制で輸血検査を施行し、さらに多数の検査項目の結果を微量検体でリアルタイムに報告しています。生化学・免疫化学検査室ではNSTチームと連携し、詳細な検査情報を提供しています。微生物検査室では耐性菌情報を発信し、病院内ICTと連携しながら感染防止対策を行っています。輸血・細胞管理室では自己血採血の中央化や、非血縁間末梢血幹細胞移植のための末梢血幹細胞採取と、その細胞測定を行っています。産科外来では臨床検査技師による胎児超音波スクリーニングを行っています。マスキニング検査室では、公費による大阪府下(大阪市を除く)の出生児の先天性代謝異常症、重症複合免疫不全症(SICD)、脊髄性筋萎縮症(SMA)等のスクリーニング検査を行っています。また、拡大マスキニング検査としてライソゾーム病の自己負担によるスクリーニング検査を行っています。

主な検査

緊急検査、一般検査、血液・止血凝固検査、生化学・免疫化学検査、内分泌検査、微生物検査、輸血・細胞検査、病理・細胞診検査、脳波検査、心電図検査、心エコー検査、胎児超音波スクリーニング検査、呼吸機能検査、先天性代謝異常症等検査などを実施しています。

診療実績(2024年)

【検査件数】

- ・一般検査: 59,003件
- ・血液止血検査: 167,022件
- ・免疫学的検査: 96,558件
- ・生化学・内分泌検査: 704,195件
- ・血液ガス分析: 33,250件
- ・微生物検査: 23,219件
- ・薬剤血中濃度検査: 4,084件
- ・輸血検査: 18,968件
- ・造血幹細胞採取・測定: 29件
- ・病理・細胞診検査: 6,809件
- ・脳波検査: 1,367件
- ・心電図検査: 5,190件
- ・呼吸機能検査: 267件
- ・心エコー検査: 2,222件
- ・胎児超音波スクリーニング検査: 3,770件
- ・先天性代謝異常等検査: 36,150件
- ・拡大マスキニング検査: 14,072件



技師長
入江 明美

放射線部門

概要

画像診断、核医学診断、放射線治療の三部門から構成されています。全ての特殊検査は予約制をとっていますが、緊急検査は随時対応しており、全検査フィルムレスで運用しています。

X線撮影検査と透視造影検査はFPDにより、高画質・低被曝化を推進しており、FPD・IPによる歯科撮影、DXA法による骨密度測定検査も行っています。血管造影検査は主に心臓カテーテル検査・インターベンション治療を行っています。CT検査は、ADCT (320列) を導入し、高画質・高速化、低被曝化が図られています。MR装置は新たにAI機能を搭載した3Tの装置を導入し検査の質向上と検査待ちの解消を目指します。超音波検査は、胎児診断と心臓以外の全身の臓器を対象としています。RI検査は、先天性腎疾患、神経芽腫等の小児特有の疾患に対する検査を行っています。放射線治療は、IMRT、IGRTなどの高精度放射線治療が可能で、主に血液・腫瘍科、脳神経外科の難治性固形腫瘍や脳腫瘍の治療を行っています。

また、他の医療機関からのご依頼による、CT検査・MR検査や乳房手術後の放射線治療も行っています。

(「放射線科」及び「検査センター」の各ページをご覧ください。)

主な設備

- ・DR：富士フイルム社製、CALNEO Smart,flex、GL
- ・透視造影：島津社製、SONIALVISION safire17
キヤノン社製、ZEXIRA DREX-ZX80
- ・CT：キヤノン社製、Aquilion ONE (320 列マルチスライス CT)
キヤノン社製、Aquilion Prime SP (80 列マルチスライス CT)
- ・MR：GE社製、Optima MR450w 1.5T
- ・MR：キヤノン社製、Vantage Galan 3T
- ・心血管造影：キヤノン社製、Alphenix INFX-8000V/HX
- ・RI：シーメンス社製 Symbia Intevo 6
- ・超音波：キヤノン社製、Aplio a550 (2台)、Aplio 500
- ・歯科：朝日レントゲン社製、AUGE SOLIO Z CM
- ・骨密度測定：ホロジック社製、Horizon A
- ・放射線治療：パリアン社製、Clinac iX / Eclipse
- ・外科用イメージ：シーメンス社製、Cios Fusion (2台、他1台)

診療実績 (2024年)

- ・X線撮影：40,015件
- ・透視・造影：1,222件
- ・CT：4,406件
- ・MR：2,280件
- ・心血管造影：567件
- ・RI：332件
- ・放射線治療：283件
- ・超音波：3,885件
- ・骨密度測定：389件



技師長
藤原 高弘

MEセンター

概要

臨床工学技士が診療支援、医療機器使用時の安全確保のため、24時間対応しています。

◎医療機器管理

院内の各種医療機器の修理・保守の統括管理を行い、安全運用に努めています。

◎体外循環業務

人工心肺、補助循環 (ECMO)、自己血回収装置などの機器の準備と操作管理を担当して、医師、看護師と共に治療に参加しています。

◎血液浄化業務

血液透析、血漿交換、血球細胞除去療法などの機器の準備と操作管理を担当し、医師、看護師と共に治療に参加しています。

◎人工呼吸業務

院内の人工呼吸器などの保守管理、回路のセットアップや交換、呼吸療法関連のトラブル対応や病棟ラウンドなどを行い、医師、看護師と共に呼吸管理に参加しています。

◎在宅人工換気療法支援

安全に人工呼吸器を使用できるように、ご家族が使用法、回路の組み方などを習得し、自己判断と対処ができるまで指導します。退院後のご相談にも対応しています。

◎手術室関連業務

内視鏡下手術や、産科の胎児治療などが安全に施行できるように支援しています。

◎集中治療室関連業務

集中治療室での生命維持装置の操作や管理などを医師、看護師と協力して行います。

◎心臓カテーテル検査・治療関連業務

経皮的カテーテルによる各種検査や治療、心筋焼灼術などに対応しています。

◎体内埋め込みデバイス関連業務

心臓ペースメーカーや仙骨神経刺激装置の機能チェックや、遠隔モニタリングによる監視を行います。

◎院内教育および医療安全活動など

医療機器、医療ガスなど取り扱い講習の実施、これらに起因する事故解析、医療機器に関する安全性情報、警告文、機器の回収・改修情報などを院内に発信します。



センター長 (兼)
橘 一也



技師長
井上 晃仁

リハ・育療支援部門

概要

リハ・育療支援部門は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理士、視能訓練士、遺伝カウンセラー、ホスピタルプレイ士の7職種、45名で構成されています。

それぞれの職種の専門性を通じて子どもとご家族にアプローチするとともに、7職種間で連携・協働することで、子どもの成長発達に関わるトータルケアと、QOLの向上を目指します。活き活きと、その子らしく社会で暮らすことができるように、運動、手の操作、視覚/聴覚、言語、認知、社会性等の様々な側面の発達や、こころの育ちを支援します。

また、ご家族や患者さん自身の、病気にまつわる不安や悩みを軽減するために、他の医療スタッフや地域の関係機関と協力しながら対応していきます。

各チームのご案内

◎理学療法士チーム（常勤5名）

様々な原因による運動発達遅滞を含む、運動機能障がいの子どもに対して、早期の社会参加を目的に運動機能の獲得を促しています。また、両親への指導や地域療育施設、学校とも連携を行い、子どもが最適な生活・療育を受けることができるように応援しています。

◎作業療法士チーム（常勤4名）

発達課題を踏まえ日常のさまざまな場面で手の機能を促しています。手を使うことに関連する感覚・運動機能や学習基礎能力の獲得も図ります。食事、更衣、入浴、排泄など日常生活動作がなるべく自分一人で行えるように、さらに保育園・幼稚園・学校といったそれぞれの社会での援助指導をしています。

◎言語聴覚士チーム（常勤3名、非常勤3名）

言語聴覚士は、口腔外科と耳鼻咽喉科で業務を行っています。口腔外科では、主に口唇口蓋裂術後の言語管理をしています。耳鼻咽喉科では、聴力検査、難聴児の聴こえと言語管理を行っています。また、いずれの科でも、言語発達遅滞、構音障害、吃音等の言語障がい全般を扱います。

◎心理士チーム（常勤4名、非常勤16名）

心理検査や遊び、面接を通して子どもの発達の、心理的な状況を把握します。その結果を医療スタッフと共有し協働しながら、個々の子どもに応じた心理社会的支援を行っています。ご家族のメンタルケアのために、カウンセリングをする場合もあります。

◎視能訓練士チーム（常勤2名、非常勤1名）

小児の眼科一般検査、斜視や両眼視の検査・訓練を行っています。視覚の発達のみならず、発達段階や環境に配慮した対応を心がけています。先天白内障などにはコンタクトレンズの装用練習を、視覚障がい児には補助具の選定や指導、就学相談などを行います。

◎遺伝カウンセラーチーム（常勤1名、非常勤3名）

先天性疾患に対する医学的理解や遺伝学的検査の理解を支援します。遺伝に関連したさまざまな問題や不安を抱える方が、思いがけなかったり複雑だったりする情報を自分なりに理解し、受けとめ、その人なりの状況適応ができるように関わります。

◎ホスピタルプレイ士（常勤1名、非常勤2名）

ストレスが多く、心的外傷にもなり得る医療的なイベントに対して、その負の影響をできる限り軽減できるような支援を提供します。その際、子どもの成長過程にとって重要な遊びをツールとして用いて、アセスメント、介入、評価を行います。たとえば、手術・検査・処置を受ける子どもに対して、医療器具、写真ブック、メディカルプレイを用いて、発達段階に応じた心理的プレパレーションを行います。



技師長（作業療法士）
稲垣 友里



理学療法士
堀毛 信志



言語聴覚士
井上 直子



心理士
山川 咲子



視能訓練士
石坂 真美



遺伝カウンセラー
松田 圭子



ホスピタルプレイ士
長野 友希

栄養管理室

概要

入院食の提供、栄養食事指導、NST（栄養サポートチーム）を主な業務としています。入院食は、安全で美味しい食事・ミルクを提供すると同時に、治療の一環として疾病に合わせた種々の治療食を準備しています。また、小児の病態や発育段階に応じた調理形態、妊娠悪阻や重度の食思不振の患者さんへの個別対応食、栄養補給のための多種多様な補助食品の提供も行っています。

栄養食事指導では、妊娠期・小児期のさまざまな疾患に対し、栄養状態・身体状況をアセスメントし、それぞれの食習慣・生活背景などを総合的に評価して、患者さんが適切な食事を家庭で楽しく、おいしく食べ、順調な妊娠経過や子どもの発育が得られるよう食生活をサポートし



ています。また、妊婦とその家族を対象にした集団指導「ほほえみ学級（栄養と食事）」も行っています。

NSTは、医師・管理栄養士・看護師・薬剤師・臨床検査技師がコアチームとなり、基本的医療のひとつである栄養管理を個々の患者さんや各疾患治療に応じて実施しています。入院時に栄養スクリーニングをおこなって、特別な栄養管理が必要な患者さんの栄養状態を改善し、治療効果を上げ合併症を予防する活動をしています。

◎妊産婦食（例）



お祝い膳

◎離乳食（例）



室長
西本 裕紀子

診療情報管理室

概要

1983年より診療情報管理士を配置し、適切な診療記録の作成と診療情報の管理・提供などの診療支援を行っています。患者さんと医療スタッフが診療情報を共有し連携が深められるよう、チーム医療を情報管理の側面から支援し、よりよい医療サービスの提供に貢献できるよう努めています。当センターは、長期間の経過を見守ることが必要な周産期・こども病院であることから診療情報を重要な位置づけとしており、開院当初からの全診療録を閲覧できる体制を整備しています。2009年には、電子カルテシステムを導入し、原則ペーパーレスで運用しています。

また、2018年には、地域診療情報連携システム「南大阪



MOCOネット」が稼働し地域の医療機関の皆さまにも当センターの診療情報を閲覧していただくことが可能になりました。

さらに、医療情報を活用して、2006年からは「医療の質」の向上を目的に、大阪府立病院機構が運営する5つの病院で合同の臨床評価指標を算出し公表しています。



室長
平位 健治

中央滅菌材料センター

概要

中央滅菌材料センターは、院内で用いられる医療機器・器材の洗浄滅菌業務と、医療材料の供給業務の二つの大きな役割を担っています。普段は病院内の皆様のお目にかかることはあまりない部門ですが、この二つの大きな業務を行うために、多くの委託業者の方々が日夜従事されています。

◎洗浄滅菌業務

院内で使用する診療および手術用の器材を適切に洗浄・滅菌することによって、院内感染の防止に努めながら、医療材料の再生や供給を行っています。洗浄滅菌業務としては、病棟や手術部から出た使用済み医療機器・器材や、院内で使用するミルク関連器材を回収・洗浄・点検・包装・滅菌・保管・供給しています。

また、手術器材を入れたコンテナや病棟で使用する器材セットなどのピッキング作業と在庫管理、院内で使用する各種内視鏡の回収・洗浄・消毒・供給なども行っています。

この作業を行うために、6台のウォッシャーディスインフェクターと蛇管洗浄器1台、超音波洗浄器1台、高圧蒸気滅菌装置5台、プラズマ滅菌装置1台を有しています。

滅菌の質を高めるために、化学的、生物学的、物理的インジケーターで滅菌判定を行っています。

◎医療材料供給業務

最近の医療はますます高度化しており、使用する機器・診療材料は日々改良され進歩しています。このような新しい医療材料の購入についても、その安全性や価格を十分に検討して導入する役割も担っています。事務局と共に業務委託している院外型SPD業者と緊密に連絡を取りながら価格交渉を行い、中材委員会・同小委員会と共に、現在使用している医療材料の使用感や安全性を損ねることなく、同種同効品への整理や共通化など、医療材料の供給業務を効率化していくことで、病院経営にも貢献しています。



センター長(兼)
樋口 周久

臨床研究部

概要

◎治験推進室

製薬企業や医療機器の会社から依頼される治験および製造販売後調査等の受託研究の実施を支援し、小児の治験を推進しています。当センターでは小児の高度な臓器別医療が行われているので、一般的な小児疾患のみならず多くの小児稀少疾患に対する治験の受け入れが可能です。また、医師が自ら行う医師主導型治験も実施しています。

治験を円滑に行うため、治験推進室では看護師・薬剤師・臨床検査技師などの資格を持つCRC(臨床研究コーディネーター)が治験依頼者と病院内の各部門を橋渡しし、患者さんへの対応や医師のサポート、各種事務書類の作成など、受託研究の開始から終了までを支援しています。



◎臨床研究支援室

医師やコメディカルが行う臨床研究の支援を行っています。また、子どもやその家族を対象とした臨床研究が倫理的および科学的に問題なく行われるよう、スタッフの教育や研究に対する助言を行っています。また、倫理委員会事務局や科研究費等経理の業務を通じて、研究関連書類の作成、研究費管理などの支援も行っています。



部長(兼)
平野 慎也



臨床研究コーディネーター
山崎 美智子

医療安全管理室

概要

当センターにおける医療の質向上と医療安全管理を組織横断的に推進する目的で2006年4月に医療安全管理室を設置し、医療安全管理者を配置しました。患者さんの安全確保・向上のため医療安全管理委員や院内の関係者との協議に基づいて医療事故防止対策の推進を図っています。

主な業務

◎医療安全活動に関すること

- ・医療安全に関する現場の情報収集および実態調査
- ・医療に係る安全管理のための職員研修の企画および運営
- ・医療事故防止対策マニュアルの策定に関すること
- ・医療安全管理委員会の開催および同委員会への議題の提案
- ・『大阪府立病院機構医療事故公表基準』に基づく医療事故件数の公表

◎医療事故発生時の対応等に関すること

- ・『インシデントレポートシステム』で受理した事例の情報収集および分析
- ・医療事故予防策、再発防止策の立案・実施・評価・見直し
- ・『医療安全パトロール』による予防策等の実施状況調査および把握
- ・医療事故発生時の患者さんやご家族への対応状況の確認および指導
- ・医療事故発生時の診療録や看護記録等への記載状況の確認および指導



室長(兼)
和田 和子



医療安全管理者
濱田 羊奈

感染管理室

概要

感染管理室は、感染対策の実働部隊である感染制御チーム (ICT: Infection Control Team) と抗菌薬適正使用支援チーム (AST: Antimicrobial Stewardship Team) の活動拠点として、病院全体における感染防止および抗菌薬適正使用を支援するための活動をしています。院内感染が発生しないように感染予防対策に努め、感染症が発生したときには迅速に対応します。感染管理室のメンバーは感染制御の専門的知識をもつ医師 (ICD: Infection Control Doctor) を中心に、感染管理認定看護師 (CNIC: Certified Nurse Infection Control)、薬剤師、検査技師、事務など多職種で構成されており、チームで感染防止や抗菌薬適正使用に取り組んでいます。

主な業務

- ◎感染症患者さんへの対応
- ◎院内各部署への定期的な巡回
- ◎職員への感染管理教育
- ◎感染に関する院外からの情報提供やニュースレターの発行
- ◎感染症の調査や監視 (サーベイランス)
- ◎抗菌薬適正使用の推進



室長(兼)
野崎 昌俊

CNIC
木下 真柄

看護部

看護部の概要

様々な健康問題がある母と子とそのご家族を対象に、「地域と連携し、センター内では多職種で緊密に協力して個々の患者さんご家族の気持ちに寄り添い細やかな看護が提供できる」ように心がけております。病棟では、入院生活を安心して送り、安全に治療を受けていただけるよう、担当の看護師がご家族と協力してケアプランを立てています。看護体制はチームナーシングで、受け持ち制とパートナーシップ制を併用し、継続した看護を提供できるようにしています。小児の患者さんには面会時間を気にせず、可能な限りご家族と一緒に過ごせるように配慮すると共に、ご家族がおられることで精神的な安定が得られる場合は、家族同室（付き添い）入院も可能としています。



病 棟

◎周産期部門

●母性棟

母性東棟・母性西棟（MFICU含む）・分娩部があり、ローリスク・ハイリスク妊産婦、新生児とそのご家族への援助を行っています。分娩直後より母子同室制をすすめ、親子関係形成のケアと身体の回復を支えながら無理のない母乳育児支援を行っています。また、ショートステイやデイケアを行う産後ケア事業も行っています。



●新生児棟

ご両親と赤ちゃんのきずなを大切に、24時間自由な入室面会や、ご両親が自信と喜びを持って育児できるように支援しています。また、ひとりひとりの赤ちゃんを尊重し、発達状態に合わせた療養環境やケア過程を調整するため、ディベロップメンタルケア（Developmental Care）を実践しています。



◎小児部門

小児部門は7つの病棟で構成されております。新生児期から小児期および思春期の患者さんへ手術前後のケアや内科的治療に関連するケアを行っています。また、在宅支援病床を利用して在宅療養を目指す、医療的ケア児とそのご家族を支援しています。治療中であっても学習や遊びを保障し、小・中学生の方には支援学校で教育を受けていただくことができます。また、全ての病棟に保育士を配置し、遊びや保育を通して、心身の発達を援助しています。小児の入院病棟および病室は、病状・年齢・性別・発達段階等を考慮して決めています。



◎中央部門

●小児集中治療室（PICU）／1階東棟（1E）

ICUでは幅広い年齢の重篤な患者さんを24時間看護しています。1階東棟はハイケアユニットの機能を有した病棟です。



●手術室

小児や低出生体重児の全身麻酔による手術、（超）緊急帝王切開術に対応しています。手術看護外来や術前訪問を実施し、手術室内では患者さんが選んだ音楽や映像を流して不安を和らげる工夫をしています。



外 来

◎ 母性外来

● 助産外来

妊娠経過が正常な方を対象に、医師の診察を数回交え、助産師が妊婦健診を行っています。妊婦さんご自身が主体的に妊娠・分娩・育児に取り組めるよう援助しています。



助産外来での妊婦さんの健診スケジュール

妊娠週数	12	16	20	24	26	28	30	32	34	36	37	38	39	40
助産師				★	★		★	★	★		★	★	★	
医 師	●	●	●			●				●				●

● 多胎外来

年間約100例の多胎出産があります。多胎のテキスト「すくすく」を使用し保健指導を行い、多胎妊婦さんに向けての両親学級も行っています。

● 産後サポート外来

産後のお母さんを対象に母乳相談をはじめ、育児や、きょうだいのことなどさまざまな相談に応じています。



● 産後2週間健診

出産2週間を目安に在宅での母児の様子を確認させていただきます。赤ちゃんの状態の観察と、母乳育児相談を行います。お母さんの心身のケアも行っています。



◎ 小児外来

小児外来では多職種が連携し、患者さんが安全に適切な外来診療が受けられるよう支援しています。また検査では、不安や恐怖感を抱かないようプレパレーションや睡眠導入を行っています。



◎ 看護外来

専門的な知識や技術を持つ看護師が患者さんやご家族の相談に応じ、アドバイスやケアを行っています。通常の診察とは異なり看護師がじっくりと時間をかけてサポートします。患者さんの日々の生活ができる限り快適に安心して送れるように、看護師と一緒に支援します。



看護部長
田中 はるみ



副看護部長(兼)
田家 由美子



副看護部長
竹森 和美



副看護部長(兼)
藤原 美由紀



副看護部長
井本 清美



副看護部長
花井 貴美



副看護部長(兼)
濱田 羊奈



副看護部長(兼)
西井 美津子

母子保健調査室

地域保健機関（保健所・保健センター）等と連絡調整を行い、地域における母子保健活動の技術的支援を行っています。低出生体重児や外科的・内科的治療が必要な入院児の発達・育児・療育について面接相談を行い、退院時には地域で効果的に支援が行われるよう要養育支援者情報提供票を発行しています。

多胎、若年出産・社会経済的リスク等の養育問題が危惧される妊婦やその家族に対しても面接相談を行い、地域での支援につなげています。



また、母子保健にかかる調査、疫学データの分析・発信や、国内外からの研修生の受入をしています。大阪府委託事業「にんしんSOS」相談の運営、環境省委託事業「エコチル調査」を実施しています。



室長
馬場 幸子

情報企画室

2021年5月に電子カルテシステムを更新しました。病院では診療が24時間体制で行われますので、電子カルテも24時間いつでも使用できる状態で運営されなければなりません。電子カルテはコンピュータシステムで、おおもとのサーバーと呼ばれる大きなコンピュータ、病棟や外来の診察室など各部署で電子カルテを参照する小さなパソコン、それらを繋ぐネットワークなどがあり、情報企画室では、そのコンピュータシステムを常時、問題なく安全に稼働させるための運営管理、保全作業を行っています。



さらに、医療現場の医師、看護師、コメディカル職員などからの電子カルテに関するお問い合わせや障害時に迅速に対応し、できる限り診療に影響を及ぼすことのないよう環境維持を心がけています。また、今後の診療に役立てるため、研究、解析などの支援や電子カルテの機能改善を適宜行っています。

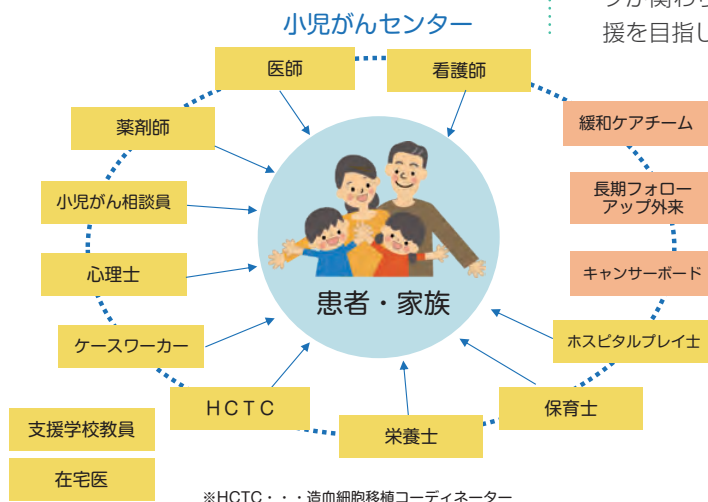


室長
西谷 高平

小児がんセンター

概要

小児がんセンターは、小児がんに関わる多職種・多部署が連携・協力して小児がん医療を推進・充実・発展させ、小児がん患者および家族が安心して医療を受けることができるよう、診療科や部門の壁を超えて2014年5月に設置されました。小児がんは、経過が長期にわたり、患者さんだけでなくご家族に対する支援も必要となります。



また子どもは病気を抱えながら成長していきます。その成長および治療の過程に応じて、さまざまな専門スタッフが関わり、晩期合併症なき治療と成長過程に応じた支援を目指します。



センター長(兼)
澤田 明久



小児がん相談員(看護師)
川口 めぐみ

小児がんセンター／発達外来推進室

発達外来推進室

概要

子どもはみんな成長し発達していきます。その成長と発達は、家族とともに家庭や学校などで育まれていきます。母子医療センターでは予定日より早く生まれた子どもさん、大きな外科の手術を受けた子どもさん、特殊な治療を受けた子どもさんなど、背景のちがうたくさん子どもたちがいろんな診療科にかかっています。そのような子どもたちの成長や発達は大きく異なります。それぞれの子どもを、それぞれの診療科の医師とともに栄養の側面から、また精神運動発達の側面から、そしてまた地域と関わりの深い保健師とともに長期的な視野にたって、助言し、総合的な成長・発達を支援します。また、それらの子どもさんの縦断的な発達の特徴についても考えながら、これからの患者さんにも役立つような情報を発信していきます。



室長(兼)
平野 慎也

小児救命救急センター

センターの概要

2018年11月に、大阪府から認定を受け、当院は小児救命救急センターの運用を開始しています。また、2020年12月からは大阪府2次救急告示医機関として認定されています。集中治療科と救急担当の小児科をはじめ、小児外科など院内全ての科が、24時間365日体制で、可能な限りの救急患者さんに対応しています。

全ての小児の重症病態に対応するよう体制を整備中ですが、現在のところ、主に内因系の重症患者さんを積極的に受け入れています。当院かかりつけの患者さんの自宅での急変や、近隣の小児科・病院で診断された重症患者さんの搬送依頼にももちろん、これまで通り対応しています。



主な対象疾患

開設以来、クループや異物誤嚥などを含む上気道疾患、細気管支炎や肺炎などの呼吸不全、不整脈、心筋炎による心不全、急性脳症を含む痙攣や意識低下、代謝性疾患などによる代謝性アシドーシス、虐待も含む頭部外傷、敗血症性ショックなどで来院されています。心肺停止症例にも、もちろん対応しています。



主な診療

ハイフロー療法、気管挿管、人工呼吸、脳低温／平温療法、鎮静剤やカテコラミンなどの持続微量点滴、電気的除細動、持続血液ろ過透析、（専門の外科医による）緊急手術などを行なっています。心肺蘇生が必要な場合もあります。また、院内には常時臨床工学技士も待機しており、必要ないつでも、ECMOを開始することができます。



地域医療機関にお知らせしたいメッセージ

PICUホットライン

当センターのIDを持っていないくても、重症・重篤であると考えられる患者さんは、当PICUで受け入れています。24時間対応します。

TEL : 0725-56-1070

2022年4月からは、泉州地域の小児救急輪番制に病院として参加しております。

詳しくは
<https://www.wch.opho.jp/hospital/consultation/emergency.html>
をご覧ください



図書室

概要

◎親と子のとしょかん

入院患者さんやそのご家族にご利用いただける「親と子のとしょかん」を設置しています。児童用図書（絵本・知識の本・紙芝居など）やおとな用図書（病気に関する本・小説・闘病記など）など、さまざまな資料を所蔵し、病棟でも利用できるように「移動としょかん」も行っています。患者さんやご家族により良い療養環境を提供できるように努めています。



◎医学図書室

医学関連の専門書を中心に所蔵し、外国雑誌も充実しています。また、オンラインでの医学文献検索や電子ジャーナルを取り入れています。当センターが高度で専門的な医療を継続的に提供できるように最新医学情報の収集に



努めています。一方で、外部からの文献依頼への対応や連携医療機関への開放など、開かれた図書室としての役割も担っています。



図書室／ボランティア

ボランティア

概要

地域に開かれたセンターとして、ボランティアを積極的に受け入れています。現在、10代から80代の100名以上が様々な活動を展開してくださっています。ボランティアのメンバーは、自分自身の得意分野を生かし、自己実現をしながら、患者さんやご家族に安心や楽しさを感じてもらうような活動をするように心がけています。センターはボランティアコーディネーターを配置して、ボランティア活動を支援しています。



主な活動

- ・外来患者さんとの遊び
- ・きょうだいお預かり
- ・患者さんのニーズにそった医療補助具の作成
- ・園芸
- ・壁面装飾
- ・絵本の読み聞かせ
- ・ロビーでのピアノ演奏
- ・移動としょかん
- ・ボランティアニュース「なあれ」の定期発行
- ・イベントの開催 など



患者支援センター

概要

患者さんがより良い医療を受け、地域や家庭で安心して生活できるよう総合的に支援することを目的としています。総合相談（小児がん相談含む）・地域連携・在宅医療支援、入退院センターに、看護師・助産師・医療ソーシャルワーカー（MSW）・保健師・心理士・薬剤師など多職種を配置し、有機的に連携を図りながら、患者さんを支援しています。

主な業務

◎総合相談

子どもの病気や妊娠・出産は、患者さんやご家族の生活に大きな変化をもたらします。

疾病や治療等の不安だけでなく、医療費や養育等についての心配や負担を感じられることもあります。

このような患者さん、ご家族が抱える問題の解決にむけて、心理、社会的な相談援助を行っています。

- ・医療費に関する公費制度、社会保障制度、福祉サービスの紹介・調整
- ・福祉事務所等の行政機関との調整
- ・退院支援として地域機関の紹介・調整
- ・発達・心理相談
- ・育児相談
- ・受診・病状相談
- ・医師や看護師、コメディカル、院内職員と連絡調整
- ・医療安全

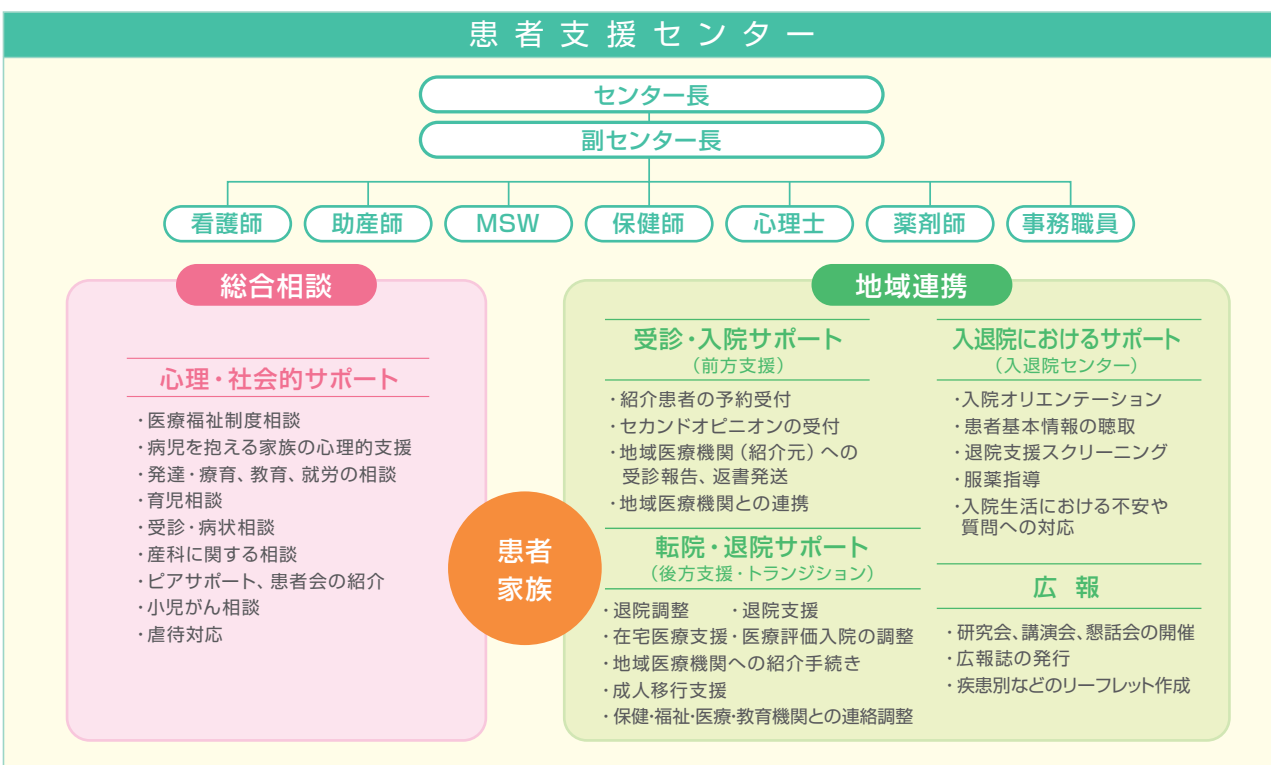
<小児がん相談>

小児がん患者さん、ご家族の抱える問題を一緒に解決できるようにお手伝いしています。治療中、治療後はもちろん、他院を受診されている患者さん、ご家族にも対応しています。

- ・小児がん患者さんの発育、教育および療育上の相談
- ・小児がん診療等に関する一般的な情報の提供
- ・小児がんに関連する社会保障制度の提供
- ・地域の医療機関および医療従事者に関する情報の提供
- ・セカンドオピニオンの相談
- ・患者会の紹介



患者支援センター



◎地域連携

当センターと地域医療機関との「双方向の連携」のための窓口として地域医療連携の推進に努めています。

<地域連携> 受診・入院サポート、広報

- ・紹介患者さんの初診受付
- ・予約調整とその通知
- ・受診結果のご報告
- ・治療経過・結果のご報告
- ・他の医療機関初診予約の取得
- ・セカンドオピニオンの受付
- ・産科セミオープン登録施設の管理
- ・「連携医療機関」等の登録
- ・病診連携推進のための広報活動
- ・各種研修会の企画、開催
- ・紹介情報の管理と分析・報告
- ・疾患別リーフレットの作成

<在宅医療支援> 転院・退院サポート

退院後に医療的ケアが必要な患者さんとそのご家族に対して入院中から関わり、退院後の生活がスムーズに行えるように、退院支援を行っています。また、退院後は毎月の受診時に看護外来にて、外来看護師と必要に応じて連携しながら在宅療養指導を行っています。

- ・在宅医療に関する療養相談
医療的ケアの指導、療養相談等
- ・在宅医療用物品・機器管理の窓口
在宅医療に必要な物品の管理等
- ・訪問看護や在宅医療、その他地域サービスなどの相談
- ・医療的ケアを抱えて生活する患者さん・ご家族への心理士による相談
- ・院内連携
在宅医療開始へ向けた入院病棟との連携、各種部門との連携等
- ・退院調整
早期介入、必要な支援の検討、調整等
- ・在宅支援病床との連携
在宅移行のための家族支援、地域関係機関との連携、退院後の評価等
- ・地域連携
地域保健所との合同会議
地域関連機関とのカンファレンス等



<入退院センター> 入退院におけるサポート

入院治療を行う患者さんをご家族が安心して入院生活を送ることができるように、入院前から関わり支援しています。入院前に得られた情報は外来、病棟に伝え連携を図るとともに退院支援に繋げています。

- ・入院までの説明
- ・入院オリエンテーション
- ・有料個室希望の確認
- ・書類の確認
- ・患者基本情報の聴取
- ・「治療を受ける子どもへの説明」リーフレットの配布
- ・入院生活における不安や質問への対応
- ・転倒・転落アセスメント
- ・アレルギー対応食の確認
- ・持参薬の確認と服薬指導
- ・入院当日の体調確認
- ・退院支援スクリーニング



■患者支援センター
直通電話 ☎0725-55-3113

■患者相談窓口
直通電話 ☎0725-56-7355
午前9時～午後5時30分



センター長(兼)
樋口 周久



副センター長(兼)
位田 忍



副センター長(兼)
望月 成隆



副センター長
田家 由美子

初診予約枠一覧

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
産科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
母性内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
消化器・内分泌科	○	—	○	—	○	—	○	○	○	○
腎・代謝科	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—
血液・腫瘍科	—	—	○	—	—	—	○	—	—	—
呼吸器・アレルギー科	○	○	—	○	○	○	○	○	○	—
脳神経内科	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
子どものこころの診療科	—	—	○	—	○	—	—	—	—	—
遺伝診療科	○	—	○	○	—	—	○	○	○	—
循環器内科	○9:30	—	○9:30	—	—	—	○9:30	—	—	—
心臓血管外科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小児外科	—	—	○	○	—	—	○	○	○	—
脳神経外科	—	—	—	—	○	—	—	○	○	—
泌尿器科	○	○	—	—	○	○	—	—	○	○
形成外科	○	○	—	—	○	○	—	—	—	—
眼科	—	○	○	—	—	○	—	—	○	—
耳鼻咽喉科	—	—	○	○	○	—	○	—	—	—
整形外科	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
口腔外科	○	○	○	—	—	—	○	—	—	—

医師の異動等により初診枠は変更されることがあります。
HP で常に最新情報に更新しておりますのでご確認ください。

(2025 年 5 月現在)

施設認定等一覧

■病院機能

新生児診療相互援助システム(NMCS)基幹病院
産婦人科診療相互援助システム(OGCS)基幹病院
大阪府小児中核病院
WHO 協力センター
DPC 対象病院
日本医療機能評価機構認定病院
二次救急告示医療機関
大阪府難病診療分野拠点病院
大阪府小児がん拠点病院
日本赤十字社近畿さい帯バンク提携産科施設

日本骨髄バンク非血縁者間骨髄採取認定施設
日本骨髄バンク非血縁者間末梢血幹細胞採取認定施設
日本造血細胞移植学会非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科
日本臨床データベース機構(NCD)への手術・治療情報登録施行施設
日本医学放射線学会画像診断管理認証施設
日本病理学会認定病院
日本臨床衛生検査技師会精度保証認定施設
日本臨床栄養代謝学会認定 NST 稼働施設
地域医療支援病院

■認定施設

母体保護法指定医研修機関
厚生労働省外国医師・歯科医師臨床修練指定病院(周産期医療・小児医療)
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修基幹施設
日本周産期・新生児医学会周産期専門医(母体・胎児)暫定認定施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本周産期・新生児医学会周産期専門医(新生児)暫定認定施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修支援施設
日本腎臓学会認定教育施設
日本血液学会認定専門医研修認定施設
小児血液・がん専門医研修施設
日本がん治療認定医療機構認定研修施設
日本小児神経学会小児神経専門医制度研修施設
日本臨床神経生理学会認定施設(脳波分野)
日本でんかん学会研修施設
臨床遺伝専門医制度委員会認定研修施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本成人先天性心疾患学会成人先天性心疾患専門医連携研修施設
日本小児循環器学会小児循環器専門医研修施設
日本胎児心臓超音波検査専門施設

日本心エコー図学会認定心エコー図専門医制度研修施設
日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会・日本心血管インターベンション治療学会合同教育委員会認定経皮的動脈管閉鎖術施工施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定基幹施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本小児外科学会専門医制度認定施設
日本脳神経外科学会 専門研修プログラム 連携施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設基幹教育施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本手の外科学会研修施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本形成外科学会認定研修施設
日本口腔外科学会専門医制度研修機関
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設
日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設
日本集中治療医学会専門医研修施設
日本医学放射線学会放射線科専門医特殊修練機関
日本リハビリテーション医学会研修施設
日本病院薬剤師会妊婦・授乳婦専門薬剤師養成研修施設
日本マス・スクリーニング学会指定研修機関



交通のご案内

○電車をご利用の場合

新大阪駅→(大阪メトロ御堂筋線 約15分)→南海難波駅
→(南海高野線・泉北線 約27分)→光明池駅
→(徒歩5分)→大阪母子医療センター

新大阪駅→(大阪メトロ御堂筋線 約40分)→なかもす駅
→(南海泉北線 約12分)→光明池駅→(徒歩5分)
→大阪母子医療センター

○自動車をご利用の場合

【阪和自動車道】

阪和自動車道(堺I.C)出口左折→(泉北2号線)
→豊田橋南交差点右折→(泉北1号線)→光明池出口
→左折→1つ目の信号右折→専用入口
→大阪母子医療センター

【阪神高速堺線】

阪神高速堺線(堺I.C)出口→直進→(国道26号線)
→石津町東2丁交差点左折→(泉北1号線)
→光明池出口→左折→1つ目の信号右折
→専用入口→大阪母子医療センター

○光明池駅からのご案内

南海泉北線(光明池駅)から徒歩5分
光明池駅改札口を出て左に進む→右手階段を上がる
→マクドナルド光明池店の角を右折
→ダイエーとの間の陸橋を進む
→大阪母子医療センター



地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町840

TEL:0725-56-1220(代表) FAX:0725-56-5682

HPアドレス: <https://www.wch.opho.jp>